

日本地理正宗

佐久間舜一郎 著

後編第一卷

佐久間舜一郎 著

日本地理正宗

後編上
二冊

教育書
專賣所

東京

普及舍

日本地理正宗後編第一卷

目次

畿内誌

山城 大和 河内 和泉 攝津

東海道誌

伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河

甲斐 伊豆 七島及小笠原群島 相模 武藏 安房 上總

下總 常陸

日本地理正宗後編第一卷 一 教育書專賣所發行

日本書紀卷之二十一

磐内

磐内

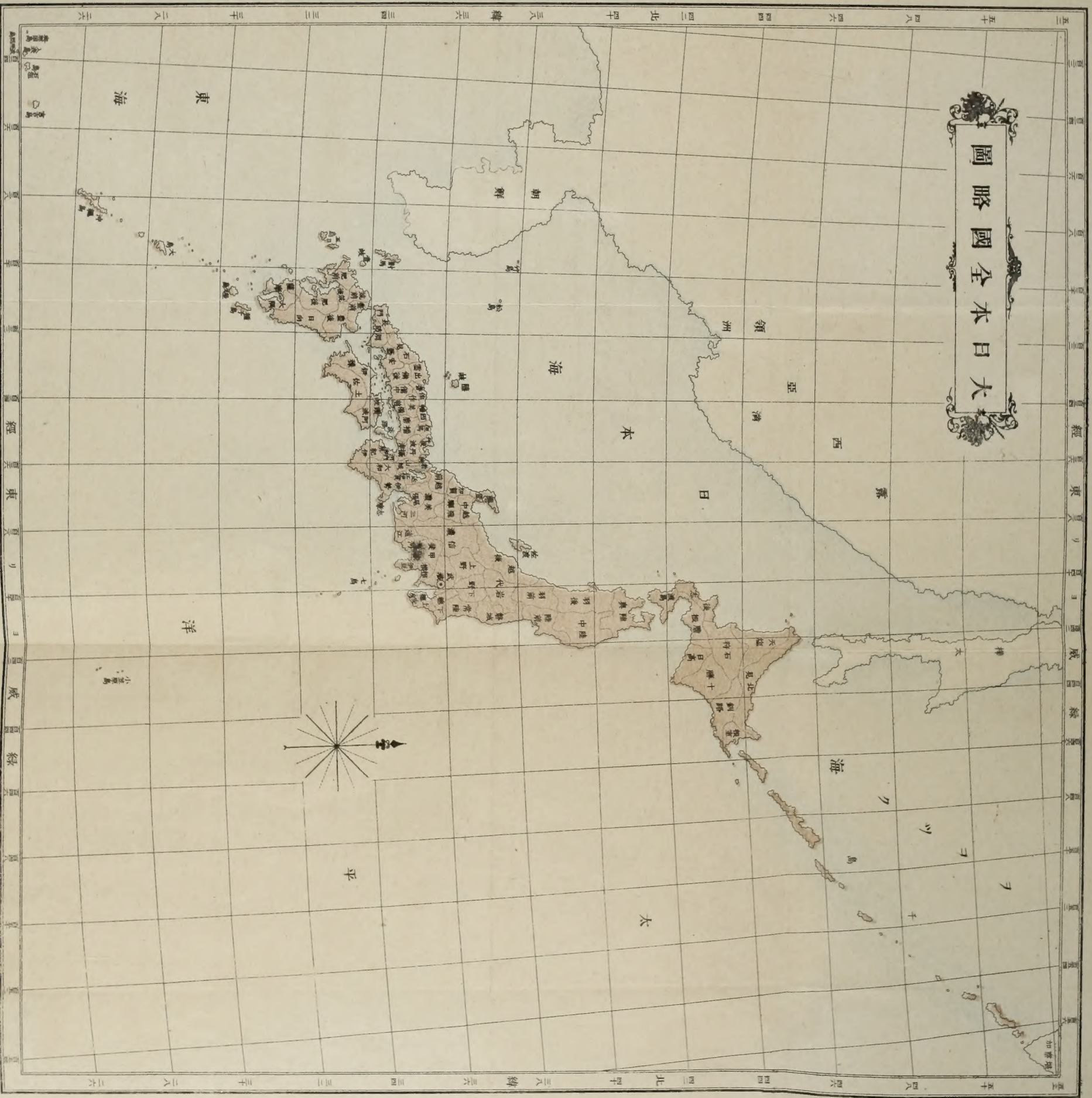
大


内

味

果

大日本全國略圖





Digitized by the Internet Archive
in 2017 with funding from
Brigham Young University

畿内之圖



日本地理 正宗後編第一卷

佐久間舜一郎 著

畿内誌

畿内ハ山城、大和、河内、和泉、攝津ノ五國ニテ、本洲ノ中央ニ位シ、古來久ク皇都ノ所在地タリシヲ以テ八道ノ分畫皆此本道ヲ以テ基點トス、明治ノ初年東京ニ遷都以來、京都ヲ府トナシ、之ヲ西京ト稱ス、而シテ此五國ハ歷朝山陵ノ在ル所ナルガ故ニ、今尚依然トシテ諸道ニ冠タリ、山河ノ形勢土壤ノ膏腴、四方交通ノ便、水陸運漕ノ利、悉ク以テ其位置ニ背カズ

山城國

山城ハ、四面概ネ山ヲ遶ラシ、中間ノ地皆平坦ニ

シテ、東西凡六里餘、南北凡十五里許、之ヲ一市八

郡二區畫ス

區畫

京都

市中更ニ上京下京ノ二區ニ分ツ以下皆郡

葛野、愛宕、乙訓、紀伊

宇治、久世、綴喜、相樂

戸口

戸數十一萬四千二百二十餘、人口四十六萬八千六

田圃

百餘アリテ、田圃ノ總計ハ凡二萬三千八百七十

餘町

田一萬六千七百四十五町八反、圃六千九百五十九町外ニ官有ノ田圃百六十九町七反

地味頗ル肥沃、一般人民ノ風俗ハ溫和ニシテ皆

能ク耕種作業ニ勤ム、宇治、紀伊、久世、綴喜ノ諸郡

宇治茶

ニハ、昔嵯峨天皇ノ朝弘仁中ニ始テ茶ヲ植エシ

ヨリ、一千有年來ノ今ニ至リテ、遂ニ本邦第一産

茶ノ名地トナリ、就中宇治ノ製茶ハ其名聲夙ニ

物産

世ニ顯ハレ、當時廣ク内外諸國ノ賞愛スル所トナレリ、其他葛野、紀伊二郡ノ大蕪^{カブラ}青^{ミツ}水菜^ナ、愛宕郡ノ大蘿^{オホグ}蓐^{コシ}等、各京都青物市場ニ其美ヲ鬪ハシ、又乙訓、葛野ノ各地ニハ人造ノ竹林多クシテ、良竹及佳筍ヲ出スコト夥シク、宇治、愛宕ノ諸山ニハ松茸ノ名産アリ、桂川ノ年魚ハ特ニ此地方ノ優物ナリ

京都

製造

京都ハ桓武天皇延暦十三年定鼎以來、今上天皇東遷ノ明治二年ニ至ル迄、正ニ一千七十六年間ノ久シキ、不遷ノ皇都タリシヲ以テ、人文ノ開化自ラ他ノ府縣ト異ナリテ、美術工織ノ業夙ニ其歩ヲ進メ、世ニ有名ナル西陣織^{ニセモノ}、繡物^{モリモノ}、漆物、及漆器、

陶器ノ類、其外木偶人、毛植^{ケウ}細工等ノ精緻優美ヲ
極メタルハ皆本都特有ノ製産ヲ以テ誇ルニ足
ルベシ

市況

市街、加茂川

ニ鴨川
ニ作ル

ニ沿ヒテ葛野、愛宕ノ二郡

ニ跨リ、東西凡一里餘、南北凡一里半強、上京、下京
ノ二區ニ分レ、町數一千七百一町、戸數凡六萬四
千五百二十餘、人口凡二十六萬四千五百餘アリ、
皇宮、及二條城ハ皆上京區ニ在リ、三條ヨリ五條
ニ至ルノ諸通り最繁華ヲ極メ、七條ニハ鐵道停
車場アリテ、常ニ旅客ノ往來スル所ナリ、其北ニ
接近シテ東西本願寺ノ大迦藍ハ、巍然トシテ人
家ノ上ニ屹立シ、知恩院、八坂神社、高臺寺、清水寺

大佛殿等ノ勝地ハ皆東山鴨川東ニ在リ、加茂神社、

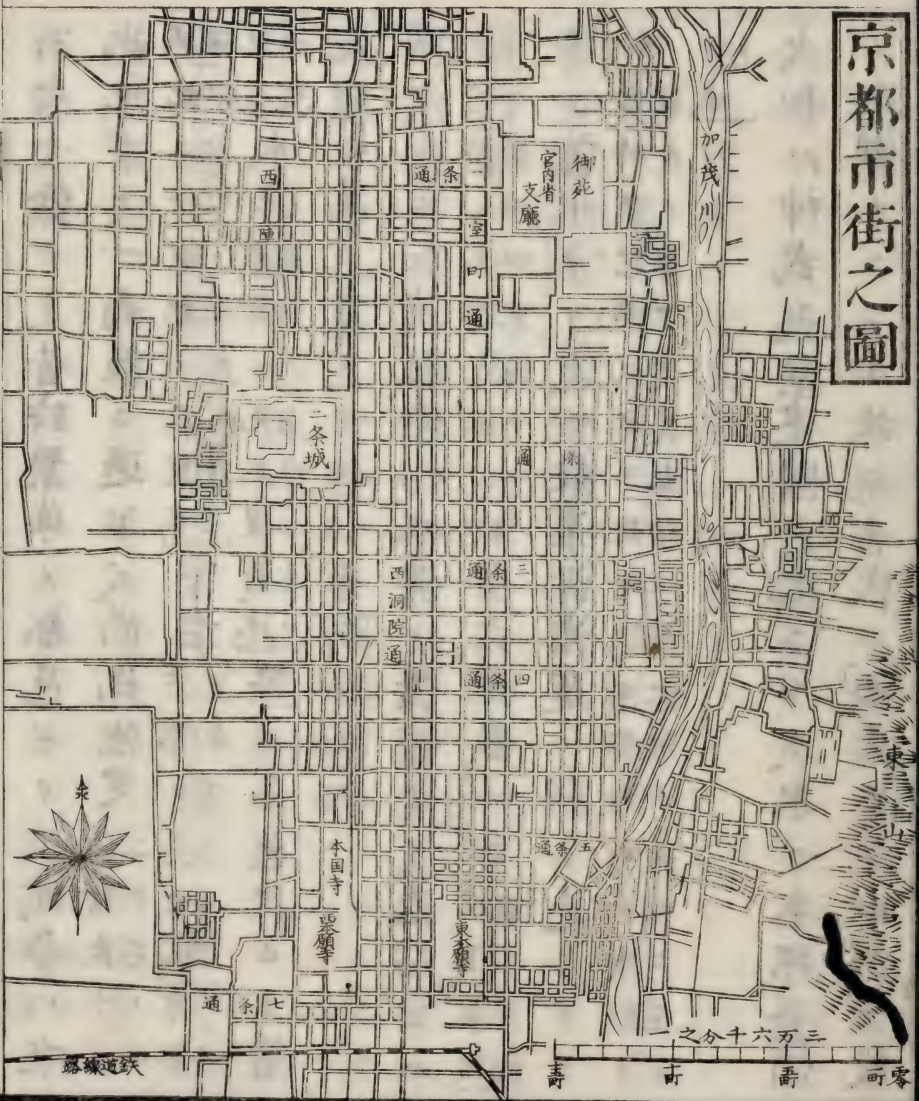
紫野大徳寺、北野天満社、蓮臺寺、金閣寺等ハ總テ市街ノ西北ニ散在ス、其他春色ニハ嵐山ノ櫻花アリ、秋景ニハ高雄ノ紅葉アリ、各此地方有名ノ勝區タリ

京都市街ハ延暦ノ始左右兩京アリテ各九條ノ大路ヲ通ジ、街衢端正ニテ、皇居其北部ノ正中ニ位シ、結構壯麗ヲ極メシモ、爾來數回ノ變遷ヲ經テ、舊規漸ク少變シ、應仁ノ兵燹ニ罹リテ以後ハ、市街大半荆棘ノ野トナリ、天正中ニ至テ稍舊ニ復シ、文祿中、更ニ土封ヲ環ラシテ鴨川ノ西ヲ洛中トシ、東ヲ洛外トス洛中洛外稱ハ蓋

伏見

シ支那ノ洛陽京ニ倣ヘルナリ其後天明ノ大火天明七年正月火ヲ失シ
 皇宮及二條城皆焼ケ、公武ノ邸第二百餘區、民
 家十八万三千戸、佛閣九百三十宇ヲ燼亡シ、焚
 死三千六百三十餘人ト云フ、此事實ハ日本通
 史載スル所ニ拠ル、然レドモ民家十八万三千
 戸ノ数ニ甚疑ハシ、蓋シ當時粗漏ノ記録後世漸
 ク史上ニ誤寫シタルニ外ナラズ、姑ク録シテ
 以テ識者ノニ市街又總テ燼亡シ、尋テ元治ノ
 考按ヲ竝ツニ至リテ昔時ノ景狀愈衰ヘ、明治ノ
 變アリ、茲ニ至リテ昔時ノ景狀愈衰ヘ、明治ノ
 始洛中洛外ノ舊稱ヲ廢シ、三條以北ヲ上京ト
 シ、以南ヲ下京トス、是ヨリ市勢復漸ク回復ス
 京都ヨリ市坊連接シ、南二里餘ニシテ伏見驛ア
 リ、此地ハ永祿中豐臣氏ノ城壘ヲ築キシ所ニテ
 舊跡今桃山ト云フ、宇治川ノ流ニ沿ヒ、大坂及奈良ニ通ズ
 ル要區ニ當リテ、戸數四千四百餘、人口凡ニ萬五

京都市街之圖



日本地理三六
後編第一卷
九
教育書專賣所
並目及合

水利

大和國

百七十餘アリ、昔時繁華ノ都邑ナリシガ、今ハ唯
此地方ノ一商區ニ過ギズ、尚此他定稻葉氏十萬
二、千石ノ旧
城地ニテ京都ニ三里半、宇治京都ニ三
里半、強ハ幡京都
ニ四
強、宇治川ノ南岸ニ在リ、
里三、水津京都ニ凡九里、弱、木等ノ名邑アルモ皆
十町、
人口一萬ニ足ラザル小市街ノミ

國中川ニ加茂、桂、宇治、水津ノ諸流アリ、池治ニハ

巨椋俗ニ大池ト云フ納所六地藏一口以上各周
二里餘

等ノ諸水アリテ、一般灌漑漕運ノ利ニ乏シカラ

ズ當時琵琶湖ノ水ヲ延キテ、京都市中ノ水利ヲ
圖ルノ舉アリ、其奏功ノ日亦漸ク近キニ在リ

ト云

大和ハ神武天皇建國ノ地ニシテ、永ク本邦全州

ノ宗國タリシガ故ニ、古代ハ「やまと」ヲ以テ一般

區畫

ヲ總稱シタルノ有様ナリキ、地域ハ殆ド山城ニ
四倍シテ、東西凡十六里餘、南北凡二十五里餘ニ
亘リ、國中ヲ十五郡ニ分畫ス

漆上、漆下、平郡、山邊、宇陀、城上、城下、十市、廣瀨、高

畿内第一ノ大國ナレドモ、全土ノ大半ハ皆山岳

田甫

二 充タサレテ平行ノ地甚少、久田圃ノ總數僅ニ

四萬四千五百五十餘町步

田三萬三千四百七十六町餘、圃三千一百一十七

地質

十四町 二過ギズ、然レ下モ土壤概ネ肥沃ニテ穀

果ニ適シ、米、麥、及茶、綿、烟草等ノ産額少カラズ、但

殖産興業ノ道未大ニ開ケズ一般ノ人民從來ノ

物産

作業工織ニノミ安堵シタルが如シ、

奈良晒、水墨、葛粉、綿、

風俗

等ノ類ヲ出スニ過ギズ而シテ其數亦僅々ノミ

風俗ハ大略簡素ナリ全

戸口

國ノ戸數凡八萬九千九百餘人口凡四十九萬一

千百餘ナリ

奈良

奈良ハ

京都ヨリ凡十里半強大坂ニ凡十二里餘

昔元明天皇ヨリ七

朝八十餘年間ノ帝都タリシ地ニテ今尚國中第

一ノ都邑ナリ戸數凡四千五百餘人口凡二萬三

千二百八十餘アリ市街ノ狀況市民ノ風俗等粗

京都ニ類似ス春日社大佛殿興福寺等ノ景色閒

雅ノ有様ハ自ラ古代ノ風致ヲ存セリ此地ヨリ

大坂ニ至ル街道ニ

奈良街道ト云フ

郡山

柳澤氏十五萬一千二百八十

餘石ノ旧城地ニテ戸數凡二千二百九十餘人立

口凡一万三千八百八十餘○奈良ヨリ凡二十里餘

田奈良ヨリ凡五里大坂等ノ驛アリ皆此地ノ

天王寺迄凡七里餘

名邑タリ、又奈良ヨリ西南十一里半強ニ五條ト
云フアリ、昔代官所ノ在リシ地ニテ今尚南部ノ
一市邑ナリ、其他吉野ノ舊蹟、十津川ノ山村等、跋
渉游觀シテ、皆懷舊ノ感情起ラザルハナキモ、土
地僻陬交通不便ノ山中ニテ將來ノ繁華ヲ期ス
ベキ目途ナキガ如シ、唯此各地ノ礦山能ク銅、石
ノ類最銅鑛多ク又金剛砂及ヲ出シ、吉野川ノ水
利能ク木材ヲ下スニ便ナル等二三ノ屬望スベ
キヲ見ルノミ

河内國

河内ハ東西僅ニ四里餘、南北凡十六里餘ノ小國
ニテ、全土ヲ十六郡ニ區畫ス

交野カヲ讚良ササ茨田アサダ若江ワカエ河内カワチ高安タカヤス大縣オホガタ安宿ヤスカベ志紀シキ濯シヅ

區畫

地勢

川丹北、丹南、八上、古市、石川、錦部

地勢東南ノ一帯ニ山ヲ控ヘ、西北淀川ノ流レニ沿ヒ、北ヨリ南ニ延長シタル狹小ノ土地ナレドモ地味頗ル膏腴ニテ、五穀百果ニ適シ、人民一般耕種ニ勤ム、又能ク紡織ノ業ヲ治メ、田圃ノ合計凡二萬八千三百八十餘町_{田二万一千七百七十町、圃六千六百十町}戸數凡五萬八千二百二十餘、人口凡二十七萬六千八百餘、風俗ハ大略淳樸ナリ

田圃

戸口

風俗

水利

國ノ西部ニ狹山池ト云フアリ、周回凡一里ニ足ラザル一小池ナレドモ、上代_{第六世紀}崇神天皇ノ朝ニ開作シタルモノニテ、殆ド二千有年來依然トシテ、今尚灌漑ノ利ヲナスモノ、亦稀世ノ良池ナ

和泉國

區畫
戸口
田圃

國ノ中央ヲ東ヨリ西ニ貫流スル一大川ヲ大和川ト云ス、水流常ニ緩ニシテ運漕ノ利アリ、和泉ハ、又河内ニ次ギタル小國ニテ、地形殆ド三角狀ヲナシ、東北ヨリ西南ニ狹長シテ、東西凡十一里、南北僅ニ九里餘ニ過ギズ、全土ヲ一市四郡ニ區畫ス

堺市、以下郡大鳥、和泉、泉南、日根

全國ノ戸數凡五萬二千二百八十餘、人口凡二十四萬四千餘アリ、田圃ハ凡一萬六千四百五十餘町、田一萬一千九百六十二町、圃四千四百八十九町ニテ地質概ネ砂土、鹽埴ヲ混シテ、最、綿花、甘蔗ニ適ス、人民ノ能ク耕作

風俗

紡織ニ務ムルコト、猶河内ノ一般ニ於ルガ如シ、
而シテ風俗ハ稍是ト異ナリテ、少シク華奢ニ向
ヒ、人情ハ大略柔順ナリ

堺

堺市ハ攝津ノ國境ニ接シ、大和川ノ海口ニ沿ヒ

テ、西ノ一面海ニ臨ミタル國中第一ノ都邑ニテ、

昔人民ノ部落ヲナシタルコト最モ早ク、天正中

ニハ葡萄牙商船屢往來シテ、通商貿易シタルコ

トモアリ、此ノ如ク古來ヨリ有名ノ都邑ナレバ、

今尚豪商名門ノ徒少ガラズト雖、港灣ノ位置形

勢共ニ大舩巨舶ノ投錨ニ便ナラズ、隨戸數凡九

テ商賣モ亦大二振ハザルノ傾キアリ

千四百二十餘、人口凡四萬三千八百餘アリ、市中

製產物

ノ重ナル製產物ハ農具、工具、種々ノ鐵器類、模様

織段氈、及煉化石等ニテ、商賣繁華ナリ、當時大坂

ヨリ鐵道ヲ通ジテ僅ニ一食時間ニ相往復ナル

ノ便アリ、以テ名産ノ櫻鯛京坂市人ノ食卓ニ登ルコト常ニ甚速ナリ

水利

攝津國

區畫

此國天然ノ灌溉ニ不便ナルガ故ニ、人造ノ池溝極テ多ク、泉南郡ノ久米田池ヲ以テ其魁トス、周回凡一里餘、東西八町二十間、南北凡六町餘、河内ノ狹山池ニ次ギタル有名ノ古池ニテ聖武天皇ノ朝、僧行基ノ開作シタルモノト云フ、千古ノ遺澤、今尚國中第一ノ灌溉ヲナセリ

攝津ハ大和ニ次ギタル畿内中第二ノ大國ニテ全土ヲ二市十二郡ニ分畫ス

大坂

市中更ニ東、西、南、北ノ四區ニ分ツ

神戸

以上皆市以下皆郡

東成、西成

住吉、島下、島上

シマ、シモ、カミ、テシマ

能勢、河邊、武庫、菟原、八部、有

馬

戸口

地勢

戸數凡二十二萬四千五百餘、人口凡九十五萬一
千七百九十餘アリ、地勢ハ、西北丹波、播磨ニ接シ
タル國境、皆攢峰重嶺ヲ以テ環ラシ、東北又少シ
ク山ヲ帶ビ、淀川沿岸以北平行ノ地ヲ以テ山城
ニ接シ、正南一帶海ニ面シテ、地形大略方形ヲナ
シ、四方各凡十二里餘ナリ

本國ハ沿海ノ地方、及淀川沿岸ヨリ和泉、河内ノ
國界ニ亘リテ、沃野平行地味膏腴ニテ、穀果ニ適
ス、田圃ノ合計凡四萬七千餘町、田三萬九百八十
二町、圃一万六千

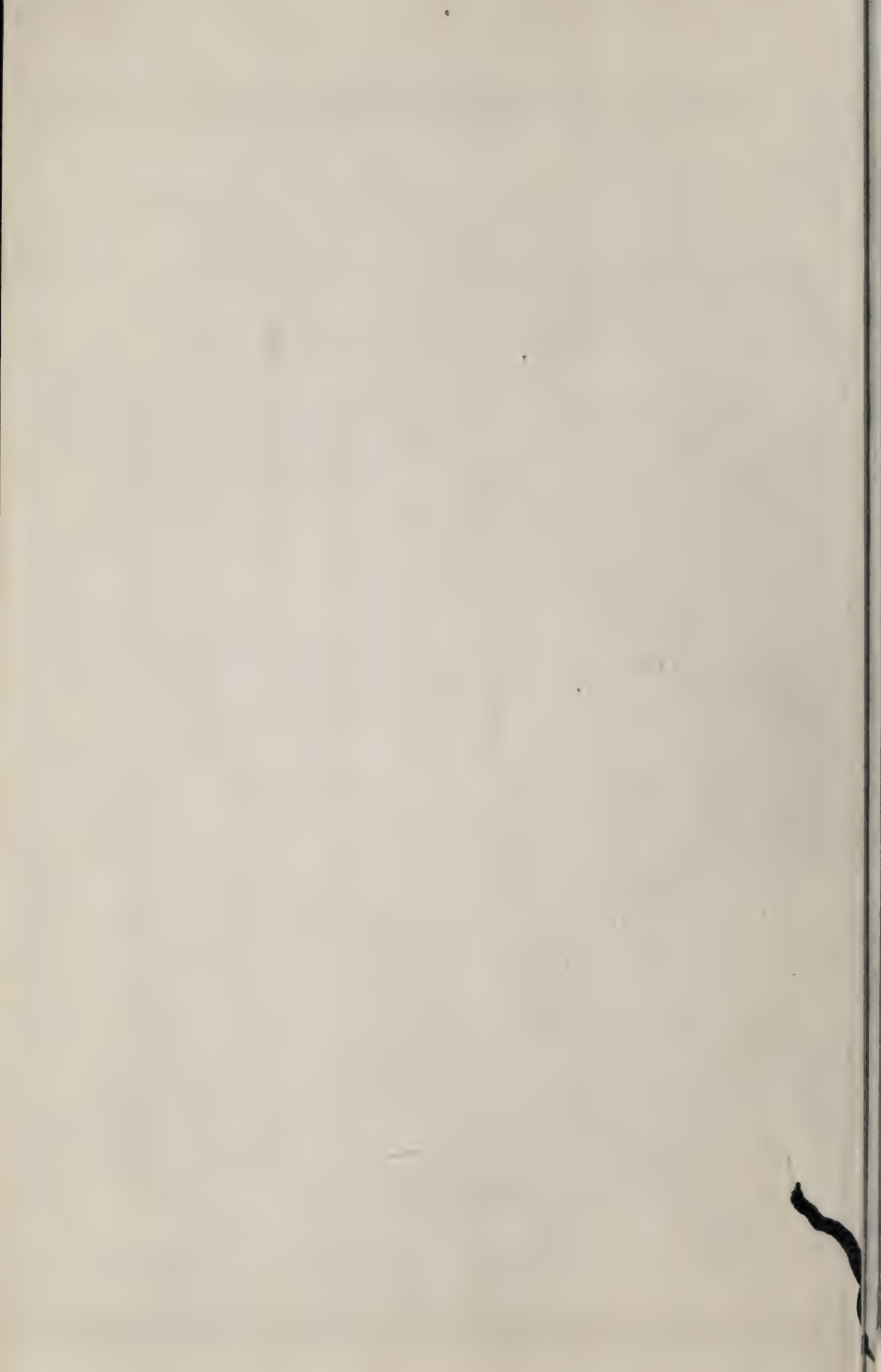
田圃

地質

二十餘アリ、都會ノ市人ハ、専ラ商工ニ從事シ、村

落ノ人民ハ皆能ク耕種ニ勉勵ス

東成郡ノ大燕
菁、西成郡





大坂

凡、住吉郡ノ綿花等皆有名ナル農産ナリ

市況

大坂市ハ關西第一ノ都會ニテ東西南北ノ四區ニ分レ、町數五百十八、町幅概ネ狹隘ナリト雖、戶數大小混ジテ、凡九萬一千九百七十餘、人口凡四十三萬二千餘アリ、今在來ノ市況ヲ按スルニ、製造興産ニ勤ムル者ハ、西區ニ多ク、一般ノ商賣ニ殷盛ナルハ東區ヲ最トシ、南區ハ遊觀ノ地ニ富ミ、北區ハ諸會社諸工場相半スルノ傾キアリ、而シテ近時最繁華ノ地ハ心齋橋通、堺筋、千日前等ヲ以テ第一トス、（今宮ノ商業俱樂部）西成郡ハ北區ニ聯リテ工業殷盛ノ地トス、（硝子、セメント、硫酸）紡績、摺附木製造、（曹達ノ製造及綿絲）諸會社ノ類アリ、豐臣氏ノ遺蹟ニテ有名ナル城

壘ハ市街ノ東北ニ在リテ今僅ニ其本丸ノ區域

ヲ存シ現ニ大坂鎮臺ノ營所トナレリ其西北ニ

當リ大川明淀川ノ本流俗ニ呼テ大川ト云フ曩ニ

巾三十八呎天神長七百八十七呎後長百三十八呎

渡邊長三呎津川長二百四十七呎宏壯ナルハ二京中

十六呎水架ス其構造ノ堅牢宏壯ナルハ二京中

大鉄橋ヲ架ス其構造ノ堅牢宏壯ナルハ二京中

其比ヲ未嘗ズテ隔テ川崎ニ造幣局アリ其構造

規摸極テ宏壯ナリ大坂ノ地ハ上代ニ湊津ト

生瑠高岡以西一帯ニ崔葦洲澤ナリ今高津ト

川ノ水勢漸次ニ上流ノ砂土ヲ送り來リ海岸ノ

淤泥ト相接シテ遂ニ漸ク陸地ヲ作り年々經ル

ニ隨ヒ本川ノ水脈自然ニ分派ヲ生ジ大略現時

ノ地形ヲナスニ至リテ部落田園亦隨テ其土壤

ヲ變更シ縦横ニ溝渠ヲ通シテ水運ノ利ヲ開キ

市街ノ狀況始テ整頓ス其後負天保ノ利ヲ開キ

治川ノ浚ヘテ海口ノ南岸ニ燈臺ヲ建テ築キ名

天保山ト云フ今其丘角ニ燈臺ヲ建テ築キ名

神戸 兵庫

津ノ標トス、然レドモ此港口風濤常ニ暴ク、且淀
川流砂ノ為ニ底淺クシテ、大船ノ繫泊ニ便ナラ
ズ

大坂ヨリ西海岸凡十里許ニシテ兵庫、神戸ノ二
港アリ、共ニ大坂二次ギタル關西屈指ノ都會ナ
リ、中ニ就キテ兵庫ハ其開始最舊ク、西南ニ和田
岬ヲ控エ、地形自然ノ港灣ヲナシテ、船舶ノ繫泊
ニ頗ル便ナリ、戸數凡一萬四千四百六十餘、人口
凡四萬五百七十餘アリ、市街湊川ノ東ニ聯リテ、
神戸ト相接シ、富商豪戸少カラズト雖、慶應三年
神戸開港以來ハ、商勢漸ク一變シテ、内外ノ大船
巨舶概ネ神戸ニ投錨スルヲ常トシ、神戸ハ日ニ
殷盛ヲ極メ、戸口年ヲ追テ増加シ、現時ノ戸數凡

七千二百四十餘、人口凡二萬七千四百四十餘ニ達シ、港灣ノ形狀、波止場、棧橋ノ設ケ等、漸次ニ其規模ヲ整理スルニ至レリ

大坂ヨリ神戸ニ至ル沿海地ニハ尼崎櫻井氏四萬石ノ旧城地ニテ戸數二千九百八十餘、人口凡西宮一萬三千百餘大坂ヨリ凡四里餘二百七十餘、人口凡一萬四百二十餘大坂ヲ距ル凡五里半強等繁華ノ名邑アリ

有馬

有馬ハ武庫山ノ北方ニ當リテ有馬郡ニ在リ、古來著名ノ溫泉場ニテ遠近ノ浴客常ニ絶エズ、偏僻ノ山間ト雖、其繁華ナルハ熱海、箱根等ノ各地ト殆ド相讓ラザルノ勢アリ

清酒

此國ハ、本邦ニテ有名ナル清酒ノ釀造地ニテ國

産物

中郡區ヨリ出ス所ノ年計凡三十三萬餘石ニ達シ、其中菟原郡ニ凡十四萬二千七百餘石、武庫郡ニ、凡十萬七千餘石、北區ニ凡二萬七千六百餘石、河邊郡ニ二萬二百餘石ヲ出シ、其他、八部、有馬、豐島、島上ノ諸郡ニモ、亦多少ノ釀造家アリ、以上ノ各郡中ニテ、特ニ著名ノ釀造地ハ池田、伊丹、富田、大石、脇濱等トス、此外ニ有馬郡ノ竹器、及筆、神戸市ノ摺附水製造等、各皆此地方ノ物産ヲ以テ稱スルニ足ルベシ

東海道誌

東海道ハ畿内ヨリ東ニ聯ナル沿海岸ノ十五國ヲ云フ、伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊

豆相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、是ナリ、此中伊賀、甲斐ノ二國、山脈圍繞ノ間ニ在リテ、共ニ海ニ接セズ、其他ノ十三國ハ、皆太平洋ニ臨ミテ、港灣ノ出入最モ繁多ナリ

伊賀國

伊賀ハ、四境山脈ニ包マレ、東西凡七里、南北凡九里許ノ小國ニテ之ヲ四郡ニ分畫ス

阿拜拜ニ作ル山田、伊賀、名張

地勢

地勢東南北ニ高く、西方ニ漸低シテ伊賀、名張ニ川ノ沿岸地稍平坦ナリ、國中山岡丘阜多クシテ

田圃

田圃ノ合計僅ニ一萬三千八百五十餘町田一萬九百二十

戸口

十五町餘、圃二千ノミ、戸數凡三萬一千九百七十餘、人口凡十萬四千二百五十餘アリ、一般ノ風俗

風俗

ハ概ネ質樸ニシテ忍耐ノ氣象アリ、都邑ノ市民ハ商工ニ從事シ、其近傍村落ノ農夫ハ皆能ク耕作ニ勤メ、山間ノ人民ハ專ラ薪ヲ樵リ炭ヲ燒クヲ業トス

交通

此國ハ四方交通ノ不便ナルニモ似ズ、東海道ノ第一二位スル國ニシテ、昔奈良ノ都ヨリ東方諸國ニ通スル者、皆常ニ茲ニ往來シタルガ故ニ之ヲ東海道ノ始ニ置キタリト云フ、然レドモ其後平安ノ都トナリテ、東行ノ通路概ネ近江路ニ據ルコトナリ、此國ハ唯其道ノ名ノミ殘リテ、旅客ノ往來スル者モナク、單ニ困難ナル山道ニ過ギザリシモ、曩ニ道路開鑿ノ事興リテ、伊勢ノ境ナ

都邑

ル長野峠ニハ隧道ヲ通シテ上野ヨリ平田、平松
ヲ經テ伊勢ノ津上野ヨリ十二里餘ニ至ル、百貨運搬ノ便
ヲ関キ、又上カミ柘植ツグキヨリ伊勢ノ加太ニ至ル道路ヲ
改修シテ、本道關セキニ通ズルノ利ヲ興シ、近時更ニ近江ノ深
川ニ至ル道路改修ノ舉アリト云フ東西ノ交通茲ニ始テ自由ヲ
得ルニ至レリ

上野ハ國中ノ一都邑ニテ、阿拜郡服部川ノ南ニ
在リ、戸數凡二千八百餘、人口凡一萬二千八百餘
アリ、市人ノ風俗ハ少シク京坂地方ニ相似タル
ガ如シ、此地ヨリ南方四里餘ニシテ名張ト云フ
アリ、上野ニ亞ギタル名邑ナレドモ、戸數僅ニ九
百餘ニテ、人口四千ニ充タズ

産物

伊勢國

地勢

區畫

國ノ物産ハ製茶、及伊賀焼ト名クル陶器阿并郡
九柱村
ニ製スヲ出スノ外、又稱スルニ足ルモノナシ
伊勢ハ地形南北ニ狹長ナル本道中西部ノ大國
ニテ、東西ノ廣キ所凡十二里、狹キハ僅ニ四里許
ニテ、南北ハ凡二十七里餘ニ亘リ、東北尾張ノ境
ヨリ南方志摩ニ接スル迄、海岸ノ屈曲殆ド弓形
ヲ作リテ遙ニ尾張三河ト相對ス、此間ノ海ヲ伊
勢海ト云フ、國中ハ西南北ノ三面皆山ヲ遶ラシ、
土地自然ニ東ニ傾斜シテ、海岸地方ノ一帯ハ總
テ平行ナル沃野ヲ控エ、全土ヲ一市十三郡ニ分
畫セリ

津

市以下
皆郡

桑名、員辨、朝明、三重、河曲、鈴鹿、菴藝、安

濃一志飯高飯野氣多度會

田圃

田圃凡七萬四千四百四十餘町田五萬五千四百九十八町餘、圃一

戸口

萬八千九百四十町餘戸數凡十三萬二千三百三十餘人口

凡六十八萬八百餘アリ

風俗

此國ノ習俗ハ南北本出雲川以南ヲ南勢トシ、以北ヲ北勢ト稱セシモ、天正中

豐臣氏ノ時北五郡ヲ尾張ニ屬シテ織田秀次ニ領セシメ南ヲ蒲生氏郷ニ治セシム是ヨリ以後

遂ニ以テ南ヲ以テ稍其趣ヲ異ニシ南部ノ人北ノ境トス

ハ概ネ伶俐便巧ニテ言論ニ騁ルノ傾キアリ

北部ハ專ラ質素ニ基キテ事業ニ勤ムルノ慣

ヒアルガ如シ而シテ山村僻陬ノ地ハ一般ニ

朴直ナリ

都邑ノ繁華ナルハ桑名四日市津山田ノ四邑ト

桑名

ス、桑名ハ旧名ヲ三崎ト云フ、松平氏六万石ノ旧城地ニテ四日市港ニ凡三里半強、津ニ
凡十二里アリ楫斐川ノ海口ニ枕ミ、戸數凡三千五百四
十餘、人口凡一萬六千餘アリテ、富商豪戸多ク、其
半ハ問屋ヲ業トシ、地方穀貨ノ轉賣ヲ主トシテ、
製造工織ニ從事スル者甚少シ、故ニ市中ノ製産
ハ、種々ノ鐵器鍋金類、及萬古燒本地、及朝明、三重諸郡ノ各地ニテ
製スル有名ヲ除クノ外、別ニ稱スベキモノヲ見
ズ、然レドモ此地ハ水陸運漕ノ利ニ富ミタルガ
故ニ信濃、美濃、尾張等諸國ノ物貨常ニ相輻輳シ
テ、市況頗ル旺盛ナリ按ズルニ今ヤ水曾、長良、楫斐ノ三大川改鑿工事中ナリ
リ、勢尾國界ニ於テ將ニ大ニ從來ノ流域ヲ異ニ
セントス、如フルニ東ニ鐵道ノ開通アリ、又西ニ
四日市港ノ漸次繁盛ヲナスアリ、此地ノ商況ニ
多少ノ變動ヲ起スハ又必ズ遠キニ非サルヲ知

四日市

ルナ

四日市ハ、北勢中屈指ノ良港ニテ、戸數凡二千四百三十餘、人口凡一萬二千七百六十餘アリ、水陸ノ運漕至便ノ所ニテ、各地ヨリ船舶ノ往來スルモノ常ニ間斷ナク、市街ノ商況日ヲ追ヒテ其繁華ヲ増シタリ

此港モ亦桑名ト等ク專ラ地方ノ物産ヲ運轉スルノ地ニテ、明治二十年中ノ輸出入物品ノ原價ヲ按スルニ、輸出原價一千五百十二萬九千九百七十三圓此中最多額ノ品類ハ生糸及米ヨ以テ魁トス、生糸ノ原價三百二十萬三千八百圓、米二百九萬三千三百七十五圓、之ニ次グヲ木綿トス、此原價百四十萬九千五百三十圓、而シテ輸入品ノ多額ナルモ亦此三種ヲ最トス、然レドモ其額各輸出

津

二超過スルモノヲ見ズ輸入原價一千四百八十五萬三千七百七十三圓ナリ之ヲ同年中桑名港ノ輸出入ニ比スルニ同港ノ輸出原價二百二十七萬六千八百七十一圓輸入原價二百五十三萬三千七百五十三圓ナリトス以テ兩港商況ノ一斑ヲ窺フニ足ルベシ

津ハ旧安濃津ト稱ス現今略シテ津ト云フ藤堂氏三十二万三千九百五十石ノ旧城地ナリ安濃郡ノ海岸ニ接シ岩田川ノ海口ニ在リテ戸數凡三千二百八十餘人口凡二萬五千餘アリ桑名山田ト共ニ鼎峙ノ狀ヲナシテ國中三都邑ノ有様アリ特ニ此地ハ縣廳裁判所等ノ所在地タルヲ以テ百貨輻輳ノ區トナリ市中ノ商況隨テ

殷盛ナリ然レ

ドモ此地モ亦

物産ノ著キモ

ノナク唯僅ニ皇

綏子紗綿織棧大

留等小部分ノ神

製産ヲ見ルノ宮

ミ且港灣ノ狀ノ

況四日市ニ及圖

バス、瀛船ノ入

津皆贄崎港ニ

投錨スルヲ常



山田

トス其海口ノ
水淺クシテ深
ク港内ニ入ル
ヲ得ザルノ不
便アリ

山田ハ津ヲ距
里宮川ノ畔ニ
沿ヒ宇治ト相
連リテ國中南
部ノ一都會ナ
リ戸數凡四千
六百五十人口

豐受大神宮ノ圖



凡二萬二千餘アリ、此地ハ本邦人民ノ一般ニ崇

奉スル内外神宮

垂仁天皇ノ朝天照大神ヲ大和

ニ奉祀ス、之ヲ内宮ト云ヒ、其後雄略天皇ノ時豊

受大神ヲ丹波ヨリ山田ニ遷祀ス之ヲ外宮ト稱

スノアル所ニテ、四方ヨリ參拜スル者常ニ絶エ

ズ、此地方ノ製產物ハ春慶塗漆器、壺屋紙、及紙製

ノ烟草袋等其重ナルモノトス

此國ハ土壤肥沃ニテ、頗ル農產ニ富ミ、就中、米、麥、

茶、綿、藍等ノ產額ハ本道中ニ於テ最屈指ノ地位

ニ在リ、且沿海ノ區域甚廣クシテ、水產ノ利モ亦

少カラズ、其他鑛山ニ山林ニ皆其富ヲ備ヘサル

ハナシ、此ノ如キ十全ノ邦土ニシテ、尚未耕ノ郊

原甚多ク、北勢ニテ鈴鹿郡ニ廣瀨野、鞠ヶ野、及能

饗野等アリ、三重、朝明ノ郡界ニ大澤野アリ、南勢
ニテ、奄藝郡ニ豐久野アリ、一志郡ニ和遲野アリ、
度會郡ニ明野アリ、皆近時漸次ニ開墾ノ業ヲ執
ル者アリテ、現ニ明野ノ如キハ已ニ開拓ニ屬シ
タル反別二百八十町餘ニ及ビテ、官設ノ勸業場
アリ、更ニ養蠶傳習所、及製絲場等ノ設ケアリテ、
盛ニ興産ノ基ヲ関ケリ

志摩國

區畫

志摩ハ、本道第一ノ小國ニテ、東西僅ニ三里許、南
北凡七里ニ過ギズ、地勢一帯ノ小山脈ヲ以テ伊
勢ト自然ノ境界ヲナシ、東南北ノ三面皆海ニ枕
ミテ全土ヲ答志^{タラシ}、英虞^{アダ}ノ二郡ニ區畫ス

此國上代ニテハ島津ノ國ト云ヒ、又伊勢島ト

モ稱へ舊伊勢ノ一島ナリシト云フ、一ニ志摩ノ名ハ、始ノ伊勢、三河ノ間ニ在リシ一海島ノ稱ヘナリ、何ノ時代ニカ其島崩壞シテ海中ニ没シタルガ故ニ、後ニ伊勢ノ二郡ヲ割キテ其國名ヲ存セリト云フ、其何レカ是ナルヲ知ラズ

地勢

産業

田圃

戸口

本國ハ土壤狹小ニテ、加フルニ山岡丘阜各地ニ交錯シ、平坦ノ地甚少シ、海岸ニハ岬角頗ル多キガ故ニ其周回ハ殆ド八十四里ニ且レリ、國人ハ概ネ水夫ト漁業トヲ主トシテ、農耕ハ其餘業ニ屬セリ、田圃亦僅ニ三千七百九十餘町田二千三百八十町餘、圃一千四百六十町五反ノミ戸數ハ凡一萬四百三十、人口

海士

産物

鳥羽

凡五萬五千五百餘アリ、風俗ハ極メテ質素ニシ
 テ一般ノ人情淳樸ナルガ如シ、漁者ハ男女共ニ
 其勞働ヲ同クシ、特ニ婦女ハ能ク海中ニ入リテ、
 鰻、貝、及海藻ノ類ヲ採ルヲ業トス、所謂ル海士ト
 稱スルモノ是ナリ、故ニ此國ノ産物ハ鯛、鰹、鰯、鰺
 慰斗鰻、貝類、及種々ノ海草等ニテ鰻ヲ漁スルヲ
 稱シ一
擧ニ数
 百金ノ利
 ヲ得ルト云フ、專ラ尾張名古屋地方ニ鬻グヲ
 多シトス

鳥羽ハ稻垣氏三万石ノ旧城地ニシテ伊國中ノ
 勢ノ津ヲ距ル凡十三里餘ニ在リ一市邑ニテ北部ノ灣頭ニ位シ、戸數凡一千百餘、
 人口凡四千七百餘アリ、灣ノ前面ニハ答志島、及
 菅島等ノ島嶼相竝ビテ、天然ノ港門ヲ作り、船舶

的矢

ノ碇泊ニ便ナリ、市中ニ造船所アリテ、專ラ日本
形ノ船舶ヲ造ル、管島ノ東角ニハ燈臺アリ、〔不動〕
高十七丈六尺、三河ノ伊良湖岬ト相對シ、伊勢海
光達十五海里、ニ入ル門口ノ標ヲナス、此間ニアル一小島ヲ神
島ト云フ、勝景ノ地ナリ

又東岸ノ中央ニ當リテ的矢港アリ、此地モ亦繫
船ニ便ナリ、港口ノ南角ヲ安乘崎ト云フ、燈臺ノ
アル所ナリ、〔面轉白色、高十丈二〕是ヨリ正東伊豆
ノ石廊岬ト遙ニ相對ス、此間ノ海ハ所謂ル遠江
灘ト稱スル即チ是ナリ

尾張國

尾張ハ、地勢東北ノ一隅ニ少シク山ヲ帶ビ、東南
ノ二面伊勢及三河ノ入海ニ臨ミ、西水曾川ノ畔

ヨリ南海岸ニ連リテ、中間一圓ノ地沃野打開ケ
テ東西凡八里、南北凡十九里之ヲ一市九郡ニ分
畫ス

區畫

名古屋市以下愛知知多、東春、日井、西春、日井、丹
羽、葉栗、中島、海東、海西

田圃

田圃凡七萬九千四百三十餘町、田五萬一千六百

戸口

二萬七千七百七十五町戸數凡十九萬四千二百餘、人口凡八

十五萬五百餘アリ

風俗

此國ハ一般ニ地味膏腴ニテ頗ル穀果ニ適シ、特
ニ米、麥、綿、藍等ノ作高ハ近傍ノ諸國ニ多ク其比
ヲ見ズ、人民皆能ク作業ニ勤メ、風俗ハ概シテ溫
和ナレドモ、市郡ニ因リテ多少ノ異同ナキ能ハ

製產物

ズ、名古屋市人ハ伶俐優柔相半シテ、稍浮薄ニ近
キモ其工織ニ勉ムルニ至リテハ、頗ル活潑ノ風
アリ、愛知、知多、海東諸郡ノ人ハ專ラ農事ニ勉勵
シ、葉栗、中島、及東春日井諸郡ノ人ハ務メテ工織
ニ従事ス

國中ノ製産物ハ、織物ヲ第一トシテ之ニ次グ

三萬三千五百四十六反中島郡ニテ古屋ニテ	四萬六千六百五十二反他ノ殘數ハ他郡ヨリ出ス綿織百十五萬二千七百六十反葉栗郡ニテ	五萬九千八百八十四反此中名古屋ニテ價五千五百四十反、中島	他ノ殘數ハ他郡ヨリ出ス絹綿交織二十一萬	五十反、中島郡ニテ八千二百五十反ヲ出シ其	八百八十二圓、明治十九年中ニ製出タル絹織	ヲ陶器トス、額九千八百九十反此價九千
---------------------	-----------------------------------------	------------------------------	---------------------	----------------------	----------------------	--------------------

豪農富商多クシテ酒酢其最多ナル地ニテ一
 ノ釀造高國中ニ冠タリ
 郡ヨリ出ス所凡五萬三千餘石皆東京地方ニ

輸出シ攝津

ノ難酒ト殆

ド相伯仲ス

ルノ勢アリ

ト云フ

名古屋

名古屋市

徳川氏六

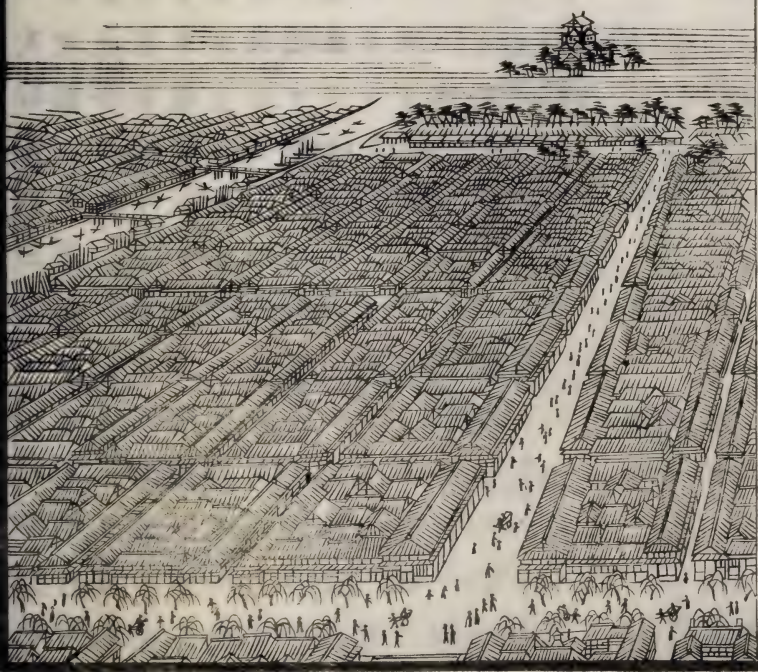
十一万九千五

百石ノ旧城地

ハ三府ニ亞ギ

タル有名ノ都
 會ニテ東西凡

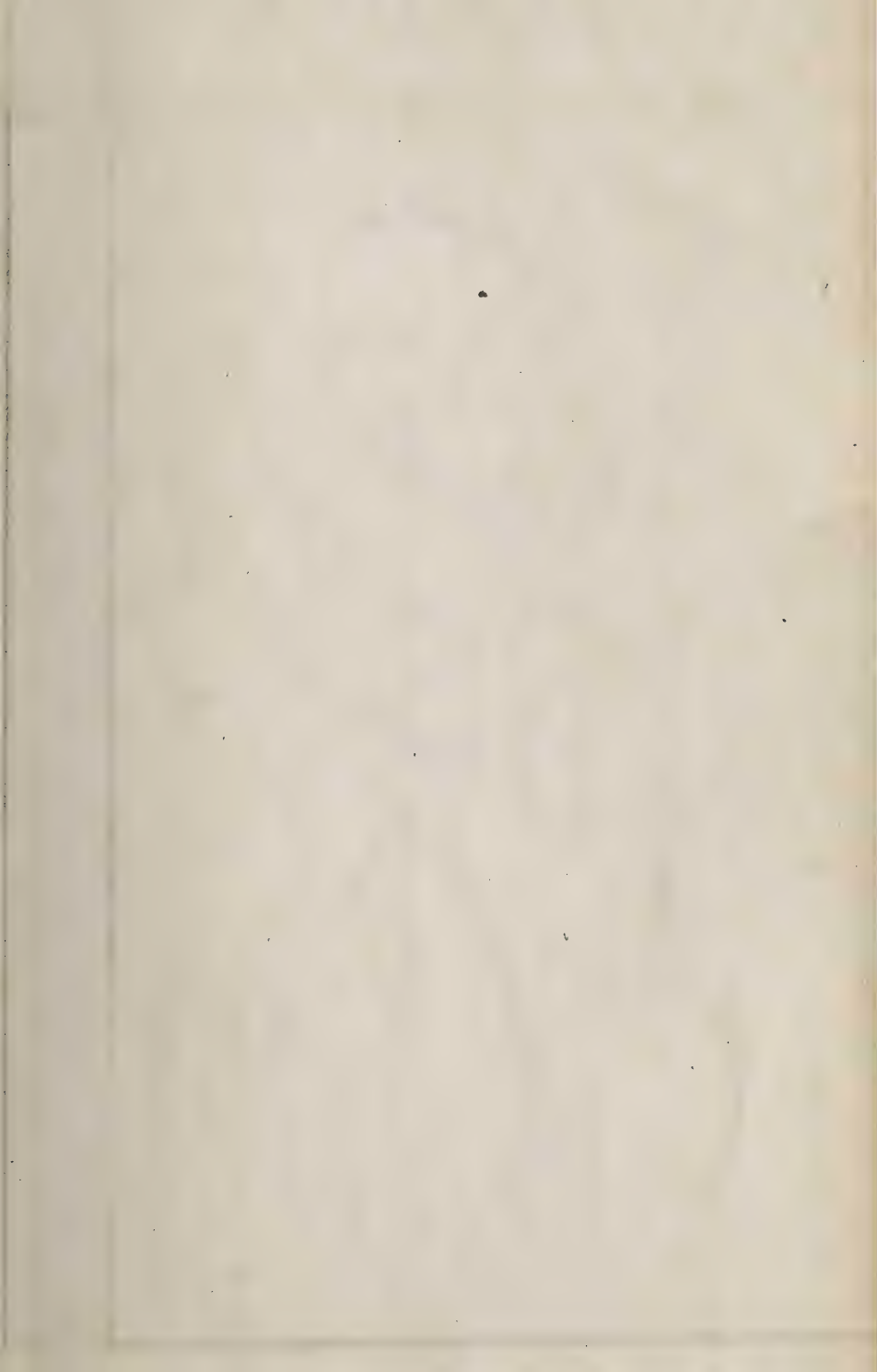
名古屋市街圖



張尾美濃海岸土地變遷古圖



尾張國葉栗郡土井神社、
小祠中ヨリ出ヅタル古圖
ニ拠リテ之ヲ模寫ス



金城

熱田

一里半強、南北凡一里十餘町、市坊ノ數凡二百七十餘町ニ分レ、戸數凡四萬三千七百二十餘、人口凡十四萬九千七百五十餘アリ、市街ノ商況頗ル殷盛ニテ、市北ニハ有名ナル名古屋城アリテ、天主閣ノ金鑄魚鱗ヲトシテ日光ニ映ジ為ニ金城ノ唱ヘアリ、郭内ノ雉堞今尚舊觀ヲ變ゼズ、三千餘人ノ鎮臺兵常ニ此中ニ屯在セリ

名古屋ヨリ市街相接スル凡一里許ニテ熱田驛アリ、此地ハ本道ノ要驛ニテ戸數凡三千九百人、口凡一萬七千餘アリ、市街ノ東北隅ニ在ルヲ熱田神社トス、日本武尊ヲ奉祀シタル關西ニテ有名ノ官幣大社ナリ殿宇宏壯、境内平衍ニテ櫻樹雜木蓊鬱タル有様ハ自然

二千古ノ風色ヲ帶ビ、四方ヨリ來賽スル者日夜
絶エズ、東海鐵道其東ニ沿ヒテ南北ニ通ジ、海灣
ハ即チ熱田港ニテ、四日市、桑名等ニ航スル船舶
ノ出入極テ頻繁ナリ

此外ニモ一宮郡中島津島郡海東稻置郡旧犬山ト稱シ

千石ノ旧城地ナリ等ノ名邑アルモ、皆人口一萬ニ
足ラザル市邑ノミ

本國ハ本今ノ丹羽、東春日井、及愛知ノ三郡伊
勢僅ニ東北ノ一部ノ海灣ナリシモ、
北ニ木曾川ノ巨流アリ、西ニ長良川ハ大
川アリテ、是等ノ諸水漸次ニ其上流ノ砂土ヲ
送り來リ、湾内ノ泥砂ト相合シテ、遂ニ漸ク一
ノ島嶼ヲ作り、年々タル經ルニ隨ヒテ、水曾川ハ
大陸地ヲ形造リ、タル常ニ國ノ西部ヨリ南流シ、其
長良川ハ斐ノ二當テハ、美濃、尾張ノ部ヨリ南流シ、其
汎溢スルニ當テハ、美濃、尾張ノ部ヨリ南流シ、其

水利

向フ所兩國ノ境界モ為ニ定リナク古来久ク
 其天然ノ流域ニ秀吉始テ此水路改修ノ工事ヲ天
 正十二年豊臣秀吉始テ此水路改修ノ工事ヲ天
 起シ、洲、腰ヨリ東南ノ諸郡ヲ割キテ悉ク之
 フ美濃ニ屬シ、今、本流ヲ以テ濃尾ノ境域ヲ
 一定シテ、時ニ堤防潰決ノ憂、少カラズ、是ニ
 塞シテ、明治二十年ヨリ、向テ、本流及長良、揖
 カ去ル明成ノ功、豫算ヲ以テ、本流及長良、揖
 六年間ニ成ノ功、豫算ヲ以テ、本流及長良、揖
 ノ三、大川、河身ノ浚、疏、流、域、ノ、開、鑿、ニ、係、ル、一、大
 工、事、ヲ、起、シ、國、庫、ヨ、リ、其、工、費、三、百、四、十、二、萬、六、千、餘、圓、
 千、五、百、餘、圓、ヲ、支、出、シ、愛、知、十、七、萬、七、千、八、百、餘、圓、
 圓、岐、阜、五、十、二、萬、六、千、八、百、餘、圓、三、重、十、八、萬、八、千、餘、圓、
 千、五、百、餘、圓、ニ、三、縣、ノ、負、擔、ス、ル、餘、圓、三、重、十、八、萬、八、千、餘、圓、
 三、千、餘、圓、ニ、テ、下、流、ヨ、リ、漸、次、ニ、起、工、シ、當、時、專、
 ラ、其、工、事、中、ナ、リ、此、工、事、終、結、ヲ、告、ル、ノ、日、ニ、至、
 ラ、バ、美、濃、尾、張、伊、勢、ノ、三、國、其、公、益、ヲ、受、ク、ル、ヤ、
 實、ニ、小、少、ニ、非、ザ、ル、ヲ、知、ル、ナ、リ、
 此國ハ以上ニ記スルガ如ク、全土ノ大半皆平行

ノ沃野ニシテ、水曾川ノ支流、其西部ニ縱横シ、中

央ニハ庄内川ニ因リテ、或ハ玉野川ト云ヒ、或ハ

枇杷島川等

北部ニハ入鹿池

丹羽郡池野村ニ在
リ周田凡三里餘

アリ、田圃ノ灌溉、物貨ノ運漕共ニ至便ノ地タリ、
又歴史上ニテ有名ナル小牧山、桶狭間等ノ古戦
場アリト雖、其地タル今日ヨリ之ヲ觀レバ、皆其
地形ニ據リテ必勝ヲトスベキノ要地ニアラズ、
小牧山ハ東春日井郡ナル平野ノ間ニ兀立シタ
ル一小山ニ過ギズ、桶狭間ハ知多郡ニ在リテ東
海道ニ沿ヒタル一ノ小溪ナルノミ、然レドモ一
ハ徳川氏ノ據テ以テ豊臣氏ニ敵シタルニ名ア
リ、一ハ織田氏寡兵ヲ以テ今川氏ノ大敵ヲ破リ
シニ聞エタリ、抑戦ハ地ヲ以テ名ヲナサズシテ
人ニ因テ聞ユルモノ乎

三河國

三河ハ尾張ノ東ニ連リ、土壤ノ大ナルハ殆ド之
ニ倍シ、東西凡十六里、南北凡十七里、全土ヲ十郡
ニ區畫ス

區畫

碧海、額田、東加茂、西加茂、幡豆、寶飯、南設樂、北設
樂、八名、渥美

地勢

地勢東北ノ二面山脈重疊シテ國境ヲ限リ、國中

田圃

攢峰重嶺各地ニ蟠崛シテ平夷ノ沃野甚狹ク、田

圃ノ總數凡六萬六千六百餘町、田三萬五千九百
二十八町、圃三萬

六百八十アリ、地質ハ肥瘠相半シタルモ、各郡一

般ニ能ク耕種ニ勤メ、米、麥、綿、藍ノ類ヲ額田、寶飯

ノ二郡村ハ旁ラ工織ニ從事スル者多シ、人情ハ

戸口

概ネ醇厚ニテ稍義氣ヲ存セリ、戸數ハ凡十一萬

七千六百餘、人口凡五十五萬一千六百餘アリ

都邑ノ名アルモノヲ岡崎、豐橋、西尾ノ三邑トス

岡崎

岡崎ハ

〔名古屋ヲ距ル東凡十里餘、旧本多氏五万石ノ城邑ナリ〕

額田郡ノ西

端ニ位シ、矢作川ニ沿ヒテ、戸數凡三千三百餘、人

口凡一萬三千餘アリ、此地ハ昔徳川氏ノ崛起シ

タル舊蹟ナルヲ以テ、其名特ニ世ニ聞エタリ、今

鐵道其南部ヲ東西ニ通ジ、東海道ノ衝ニ當リテ

水陸運漕ノ利ニ富ミ、商況隨テ旺盛ナリ

豐橋

豐橋ハ

〔本吉田ト稱シ、大河内氏七万石ノ旧城地ニテ、今名古屋鎮臺ノ分營アリ〕

岡崎

ヨリ東ニ距ルコト凡八里許ニシテ、豐川ノ東南

ニ位シ、戸數凡二千六百餘、人口凡一萬一千餘ア

西尾

リ、市街ノ盛況岡崎ニ讓ラズ、西尾ハ

〔松平氏六万石ノ旧城地〕

山林

水運

此地ヨリ正西ニ當リ幡豆郡ノ西部ニ位シ、戸數
僅ニ一千六百餘、人口凡六千餘ニ過ギザル小市
街ナレトモ、其商賣ノ盛況ハ稍觀ルベキモノアリ

國中ニ著名ノ大山林ナシト雖、西加茂郡ニ大ケ

藏^{ヅク}連山、及勘八林、東加茂郡ニ本城山等ノ諸山林

松、檜、樅、梅等ノ良木^{及雜樹森茂ヒリ}アリテ、木材薪炭ノ用ニ乏シ

カラズ、又水運灌漑ノ利ハ、東ニ豊川^{全長十七里}

多クシテ舟筏ヲ通スルモ、海^{口ヨリ上流殆ド十六里ニ達ス}アリ、中央部ニ大

平川^{全長凡七里餘、舟楫ノ利僅ニ岡崎市街ノ東}

便^{アリ}、西ニハ有名ナル矢作川^{水源美濃ヨリ}

ナル、コト凡二十三里餘、常時水量少^{ナク、シテ舟筏ノ利、豊川ニ及バズ}アリテ、國中

ノ各郡皆其澤ヲ受ケザルハナシ、乃チ國號ノ因
テ出ル所ナリト云フ

此國夙ニ養蠶製茶ノ業ニ從事スル者アリテ、各
地桑茶ノ園圃頗ル多キヲ見ル

遠江國

遠江ハ、西北ヨリ迤東一帶ノ地皆山嶺相連リテ
三河、信濃、駿河ノ三國ト其境土ヲ接シ、南方ノ地
漸次平坦ニシテ其一面總テ太平洋ニ枕ミ、東西
凡十九里、南北凡二十六里、全土ヲ十二郡ニ區畫
ス

區畫

濱名、敷智引、佐、麿王、長上、豐田、磐田、山名、周智、佐

野、城、東、榛原

田圃

全國ノ大半中央以北山岳曠野ニシテ、田圃ノ總計凡

風俗

戸口

地質

五萬五千二百六十七町八反餘、田三萬二千七百七十一町九反餘、圃二

異ニシ、南部沿道市邑ノ人ハ大略敏捷ニシテ浮

華ヲ好ムノ弊アリ、村落一般ノ人ハ質樸ニシテ

能ク作業ニカメ、北部山間ノ人ハ概ネ慄悍ニテ

稍任俠ノ風ヲ帶ブルガ如シ、戸數凡ハ萬九千七

百餘、人口凡四十五萬一千餘アリ

此國ハ天龍川ノ沿岸、二俣以南海頭ニ達スル迄

平野一帯ノ地方、及濱名灣沿岸低地ノ如キハ、地

質砂土ニ壩埴ヲ混ジテ肥瘠相半シタルモ穀果

成熟セザルノ地ナシ、敷智郡高塚村ノ地方ハ多ク甘蔗ヲ作りテ盛リニ砂

製糖ス、南部海岸ノ地ハ漁業ニ從事スルモノ多ク、

物産

鯉節、乾鰻等ノ收穫頗ル盛ナリ其外天龍川ノ鮎、鯉、濱名灣ノ鰻、鰺等ハ皆此地方ノ名産ナリ

山林

又此國ニテ米麥ノ外、重ナル物産ハ、茶ヲ以テ第一トシ、之ニ次グヲ木材トス、特ニ茶ハ各郡ニ皆之ヲ産シ、其最盛ナルハ榛原、豐田、周智ノ三郡地トス、國中毎年ニ收ムル所ノ利益概シテ數十萬圓ヲ下ラズ、隣邦駿河ト相并ビテ本邦中有名ナル産茶ノ地タリ、木材ヲ出スノ山林ニ富ミタルハ、前編ニ於テ已ニ詳述シタルノ外、天龍川沿岸ノ地方二侯以北信濃ノ國境ニ至ル迄ニハ民有ノ人造林甚多ク、皆杉及扁柏ノ良材ヲ出シ、概ネ板材ヲ製シテ、常ニ東京地方ニ輸出スルコト極メテ夥シク、其

濱松

收益亦年ニ數十萬圓ニ達ス、故ニ此地方ノ貧富
ヲトスルニハ、皆其林區所有ノ多寡ヲ以テ知ル
ベシト云フ、〔自然ニ輪伐ノ法備ハリテ、大略採伐
第二期ヲ四十年、第三期ヲ六十年トシ、通シテ之
ヲ一林區全一期トナシ、以テ賣買ノ價格ヲ定ム
リト云フ〕各地一般ニ養蠶家ト稱スベキ者少ク、
唯近時豐田、周智ノ二郡村ニハ稍之ニ從事スル
者多キニ至レリ

濱松ハ

〔戰國ノ時徳川家康ノ始テ此國ノ治所ヲ
定メタル旧城地ニテ、東京ヲ距ル凡六十

七里餘、名古屋ニ至
ル凡二十七里餘〕數智郡ノ東部ニ位シ本道ノ

衝ニ當リテ、戸數凡二千八百六十餘、人口凡一萬

三千七百餘アリ、國中第一ノ市邑ニテ、地方ノ商

賣ハ稍繁盛ナレドモ、別ニ物産ノ他ニ輸出スル

水利

モノナク、但製茶ノ期節他邦商人ノ多ク出入ス
 ルノミ、其他ハ僅ニ蘭莖、砂糖等ノ産出アルニ過
 ギズ、當時ハ濱名灣ヨリ往復ノ漁船〔市街ノ西方
 入野ノ二又〕
 アニ舟場時ニ漁苗ノ音ヲ絶タズ、市南ノ停車場ニ
 ハ漁車ノ往來頻繁ナルアリテ、外觀ノ盛況ハ果
 シテ此地方ノ殖産ヲ獎勵スルヤ否、此他新居ニ
 俟、見附、中泉、掛塚、横須賀、掛川、相良等ノ名邑アル
 モ、皆人口六七千ニ滿タザル小市街ノミ

國ノ中央部ニ天龍川ノ巨流アリ、西部ノ海頭ニ
 ハ濱名ノ大灣、及猪鼻湖〔サハナコ〕アリ、其稍東ニ佐鳴湖〔サナミコ〕
 一里ニ高塚池〔周回一里十八町〕等アリ、駿河ノ國
 十二町ニ沿ヒテ有名ナル大井川アリ、以上相須テ運

天龍川

濱名灣

漕ノ利、灌漑ノ便ニ乏シカラズ、天龍川ハ信濃ノ
諏訪湖ニ發源シ、蜿蜒トシテ南ニ奔リ、國中ヲ貫
流スルモノ凡二十七里餘、水源ヨリ此ニ至テ全
長凡六十里、舟筏ヲ通
ズルコト凡流域濶キ所凡七町餘、砂礫ノ緩流ニ
テ平時舟筏ノ上下斷エズ、本道ニハ長二百四十
六間幅二間二尺ノ木橋天龍橋ヲ架シ、其稍南方ニ
長三千八百呎ノ鐵橋ヲ架セリ、鐵道線路
濱名灣ハ上代琵琶湖ニ次ギタル一大湖ナリシ
モ、後土御門天皇ノ明應八年六月、海嘯狂波ノ為
ニ海岸ノ地脈ヲ潰決セラレテ、後遂ニ今ノ灣形
ヲナシタリ、ト云フ、其形狀四分五裂、東北ニ向テ
盆入ス、東西凡二里半、南北凡三里二十五町餘、周

回凡四十里二亘リ、其西北ノ一隅猪鼻湖

四面凡四十里

餘町湖口僅ニ九十間、其中央ニ一大岩石アリ、テ形狀猪ノ鼻ニ似タリ、此地ノ風景頗ル絶勝ニ

相接シテ共ニ一海灣ノ狀ヲナセリ、灣内水深ク

深七尺五寸シテ船舶自在ニ往來ス、近時小瀛船ヲ浮

ベテ、入野ノ三叉ヨリ灣西ナル新所村シジヨ場ノ間ヲ

通航ス

此里程凡四里半

灣口ニハ長九百二間ノ木橋濱名

橋ト云フ、巾二間二尺ヲ架シ、之ト相俟行シテ一

線ノ鐵橋アリ、西ハ新居ノ驛ニ起リテ東岸ハ即

チ舞坂マサカノ松林ニ入ル、此地ノ景色頗ル佳絶ナリ、

鐵橋ノ南方ニ當ル海口ヲ濱名港トス、港頭風常

ニ暴クシテ船舶ノ碇泊ニ便ナラズ、是ヨリ砂岸

一帯斜ニ東南ニ奔リ天龍川ノ海口ニ至リテ此間

駿河國

羽濱ト云フ掛塚港アリ、亦大船ノ投錨ニ不便ナ
リ、此地ヨリ尚蜿蜒トシテ砂磧ノ遠ク東南ニ
突出シタル一角ヲ御前岬ト云フ、此間中央ノ砂岸ヲ袖子ノ浦ト云ヒ、其以東ヲ志留波磯ト云フ伊豆ノ石廊岬ト東西相對シテ、
共ニ駿河灣ノ門口ニ當レリ、岬頭ニ燈臺第一等回轉白
色ニテ高十七丈三尺、光達十九海里半ヲ設ケテ以テ南洋航海ノ標
トス、此岬角ヨリ海上凡一里餘ノ間、暗礁交錯シ
舟行最危險ナリ

駿河ハ、東西ニ長クシテ南北ニ短ク、前後稍廣ク
シテ中央頗ル狹ク、西北ハ山岳ヲ負ヒ、南方一帯
大洋ニ面シ、富士山東北ニ挺立シテ一國ノ形勢
ヲ裝ヒ、其支脈相模、伊豆ニ綿亘シ、富士川國ノ中

區畫

央ヲ貫キテ土壤ヲ兩斷ス、東西凡十八里、南北凡十七里半、全土ヲ一市七郡二區畫ス

静岡

市以下郡

志太、益津、有渡、安倍、庵原、富士、駿東

地勢

地勢東西北ノ三方ニ高クシテ、南部漸ク低平ナ

地質

リ、地質ハ北部概ネ礫確ニテ南方ハ稍肥沃ニ屬

田圃

ス、田圃ノ總數五萬九千百十八町餘、

田二萬四千八百三十七

戸口

町六反、圃三萬四千二百八十町六反餘

戸數凡七萬五千百八十餘、人

口凡四十二萬三千餘アリ

風俗

風俗ハ各地多少ノ異同アリト雖、之ヲ概スルニ

北部山間ノ人ハ大略淳樸ニシテ、能ク力役ニ從

事シ、南部市邑ノ人ハ概ネ輕佻敏捷ノ風ヲ帶ビ

テ、稍惰慵ニ流ル、ノ弊アリ

静岡

物産

静岡ハ^{上代國府ノ在リシ地ニテ、本府中ト云フ、}德川氏七十萬石ノ旧城地ナリ○東京ヲ
距ル凡四十六里餘、京都^強安倍、有渡ノ二郡ニ跨リ、
二至ル凡八十四里半、國道ニ沿ヒテ安倍川ノ東ニ位シ、市坊ノ數凡七
十、東西二十九町餘、南北十五町、戸數凡七千六百
餘、人口凡三萬五千六百九十餘アリ、本道中名古
屋ニ次ギタル屈指ノ都邑ニテ、市街ノ商況極テ
殷盛ナリ、特ニ此國ハ有名ナル産茶ノ地ニテ其
製茶ノ期節遠近ノ商客相輻輳シテ、諸般ノ商賣
モ亦頗ル活潑ナリ、毎年製茶^{出内}ノ總額大略
三十五六萬貫ヲ下ラズ、其他ハ綿花、烟草、砂糖、及
漆器、紙^{駿河半}類ノ製産アルモ、其年額ノ多カラ
ザル皆以テ類別スルニ足ラズ、養蠶ノ業ハ駿東

富士山

富士ノ二郡村中稍之ニ從事スル者アルモ、其他ノ諸郡村ニハ尚寥々トシテ觀ルベキナシ、而シテ南方沿海ノ諸郡村ハ專ラ漁ヲ業トスル者多ク、鰹ノ收獲最盛ニシテ、廣ク他邦ニ輸出ス、此外田子ノ浦ノ方頭魚（一ニ興津）富士、安倍狩野、三川ノ鮎等皆此國中ニテ有名ナリ

富士山ハ、本邦第一ノ高山ニテ其形狀蓮葉ヲ倒置シタルニ類スルヲ以テ一ニ芙蓉峰ノ稱アリ、山脚駿東、富士ノ二郡及甲斐ノ南都留、西八代ノ二郡ニ跨リ、二國四郡ノ地ニ蟠崛シテ周圍凡四十餘里、直立一萬二千三百七十尺、四周ノ麓ヲ富士ノ裾野ト云フ、曠漠タル原野ヲ遶ラシ中腹ニ

當リテ富士山官林ト稱スル一帯ノ大山林アリ、

東ハ駿東郡ノ藤原官林ニ接シ、北ハ甲斐ノ西八

代郡官林ニ連リ東北凡十二里、西南凡三里餘ア

リ、一番官林ヨリ十一番官林ニ至地勢頗ル險峻

ニテ、林相西南ニ面シ、落葉松一ニ唐松ト云フ、凡

唐檜凡七万四千ヲ以テ主トナシ、其他榎、槻、及

雜木ノ類大小混ジテ幾十萬本ナルヤヲ詳ニセ

ズ、驚鷹其梢杪ニ巢ヒ、熊猪其下ニ捷息ス此地ヨ

リ漸ク上部ニ至レバ地質概ネ砂石焦土ニテ草

水ヲ生ゼズ絶頂ニハ焦石壁立シテ八峰成就岳

クスシ岳、白山岳、剣ノ峰、三島攢列シ其傾斜ノ角

岳、駒ヶ岳、淺間岳等ノ稱アリ度凡三十度

乃至三十五度ノ急峻ヲナシ、是ヨリ以下ハ漸次

ニ緩斜ヲナシテ、其腰部ノ下ニ至リテハ凡五度

乃至十度位 其中間陷没シテ一大洞穴ヲナス、即

チ古代ノ熾火口ニシテ、其長徑凡五町、短徑四町

半許ニテ周回殆ト半里アリ、此頂上ニ浅間神社

其南北登リ口ノ頂上ニハ、登山人ノ止宿ニ充ル

石窟ノ人家十数戸アリ、金明水、銀明水ト稱スル

二清泉湧出シ、四時水涸レズ、以テ飲料トスベシ、

洞中西南角深数仞ノ下ニハ、千古ノ積雪絶エズ、

其下ニ當リ常ニ轟々トシテ泉登山ノ人皆此頂

水流動ノ響ヲナスアリト云フ

上ニ至リテ、四方ヲ瞰望ス、近年盛夏ノ時節内外

人ノ登山スル者頗ル多シト云フ

按ズルニ、本山ノ噴火ニ因リテ今ノ形狀ヲナ

シタルハ、正ニ太古何レノ時代ニ在リシヤ、今

ヨリ遠ク其始ヲ考フ可カラズ、之ヲ我史上方

見ル所ニ拠レバ、天武天皇白鳳八年二月東方
声アリ鼓ノ如シ、六月灰降ルノ文アリ、其單ニ
東方ト云フモノ、蓋シ或ハ本山ノ噴火ニアラ
ザルコト無ラシ乎、其後百二十一年ヲ經テ、桓
武天皇延暦十九年春夏ノ交、富士山焚ケ灰ヲ

雨ラス響雷ノ如シト、尋デ又六十四年ヲ經テ、
清和天皇貞觀六年五月、駿河言ス、富士郡淺間、
大神大山火ス、霧アリ其勢甚熾ニシテ、山ヲ燒
クコト方一ニ許里、光炎高二十丈、雷アリ地
震三度、沙石兩フル、歴テ火猶滅セズ、巖ヲ焦
ヲ崩シ、云々、ト、七月、甲斐言ス、富士山テ人近
ニ暴火アリ、崗巒燒キ碎ク、草木焦シ、焚ケ忽
石流レテ、八代郡、樞並ニ刻、兩ノ水、海ヲ埋ム、
水熱シテ、湯ノ如シ、本、魚鼈皆死シ、百姓ノ居宅、
ト共ニ埋ル、云々、ト、其後、又七十三年、富士山、
雀天皇承平七年十一月、甲斐言ス、富士山、
水海ヲ埋ム、ト、後、又九月、十五、年、ヲ經テ、
皇長元五年、十一月、富士山、焚ク、ト、其後、
至ル、ト、華、又、十一月、富士山、焚ク、ト、其後、
三年、三月、富士山、焚ク、ト、其後、
經テ、東、山、天、皇、寶、永、四年、十一月、
遠江、大、震、ス、富、士、山、ト、足、高、山、ノ、間、
火ヲ登シ、相武、二、州、土、砂、及、灰、ヲ、雨、ス、方、
里、沙、土、積ム、深キ、モ、ノ、平、地、數、尺、皆、埋、ム、所、ト、
ル、二、十、四、日、ニ、至、リ、富、士、山、東、南、埋、ム、ナ、ス、之、
ヲ、室、永、山、ト、號、ス、又、三、保、洲、東、南、埋、ム、海、ニ、没、ス、
云々、ト、白、鳳、八、年、ヨリ、茲、ニ、至、リ、凡、一、千、二、百、
十九年、此、間、凡、八、田、ノ、噴、火、アリ、シ、二、似、タ、リ、室、

愛鷹山

永四年ヨリ明治二十二年迄更ニ百八十二年、山容巍然トシテ少變ヲ見ズ

富士山ノ南ニ愛鷹山ト云フアリ、其形狀ニ因テ「一ニ鋸ケ岳ト

フモ云山勢險絶ニテ檜、松、楓、及雜木蓁茂シ、東ハ駿

東郡ノ下和田村ヨリ西富士郡ニ連リテ東西大

約五里、南北一里許ノ山林アリ、目通三尺、回以上

千餘木以下凡十之ヲ愛鷹山官林ト云フ、此山脈

ヲ限リテ南方平行ノ地ヲ浮島ヶ原ト稱ス、是ヨ

リ狩野川ノ支流ニ沿ヒ一帯ノ低地ヲ東北ニ繞

リテ御殿場驛アリ、其東ヲ足柄山トス、即東海鐵

道ノ通ズル所ナリ、狩野川ノ海口ニ接シテ沼津

驛戸數凡一千八百餘アリ、其西ニ原原驛ノ西北

ニ富士沼ト云フアリ、周囲凡一里半強、此四周ノ地、一帯ニ葎、葎、沮、如ノ水澤地ニテ耕種ニ屬セズ

吉原等ノ宿驛アリ、富士川ノ西ニ蒲原、由比、興津、
江尻ノ諸驛相接シテ、此一帶ノ海岸ヲ田子ノ浦
ト云フ、南ニ三保ノ松洲突出シテ、其中自然ノ港
灣ヲナシ、灣ノ極西ヲ清水港トス、江尻、興津ノ諸
川漸次ニ砂土
ヲ流出シ、港内水毎ニ淺クシテ、大船巨船
概ネ興津ノ沖ニ投錨スルノ不便アリ國中ノ
物貨水運ニ附スルモノ皆此地ニ輻輳ス

大井川
川ノ大ナルモノ大井、富士ノ二川トシ、安倍、狩野
ノ二流之ニ次グ、大井川ハ甲斐、信濃兩國ノ界ニ

發源シ、遠江ノ國境ヲ限リ、蜿蜒南流シテ海ニ注

グ、全長四十六里

舟筏ヲ通スルモノ凡
二十五里二十餘町

平時水少

ナクシテ步渡スベキモ、雨水一度漲溢スルニ當
リテハ、洶々タル濁流兩岸ヲ浸シテ、河幅凡一里

許トナリ、白浪岩ヲ卷テ下ル、其狀勢怖ルベシト

云フ、本道ニ長六百九十三間、幅二間、木橋ヲ架

シ、名テ大井川橋

明治十二年
中ニ架設、費
用凡一万四千七百餘圓

ト云フ、

其稍南方ニ長三千二百呎ノ鐵橋

鐵道
線路

ヲ架セリ、

之ヲ本道中利根川ニ次ギタル第二ノ巨川トス

富士川ハ國中ヲ貫流スルモノ僅ニ五里、街道ハ

昔舟渡シノ所ナリシモ、今ハ假橋ヲ架シ、其南ニ

相竝ビテ長一千八百呎ノ鐵橋アリ、

本川水流ノ
形狀及舟楫

ノ利等ハ甲斐
部ニ詳カナリ

安倍

全長凡
二十里

狩野

全長
十里

ノ二川ハ、

共ニ通常ノ水流ニテ殊更ニ稱道スルニ足ラズ

甲斐國

甲斐ハ、本道中伊賀ト同ク海ナシ國ノ一ニテ、連

山四境ヲ圍繞シ、南ニ富士ノ大岳ヲ受ケ、西ニ白

區畫

根ノ高峰ヲ控ヘ、國中モ亦峰巒起伏シテ、地勢頗
ル險阨ナレドモ、中間平坦ニシテ田園閑豁シ、南
方ノ一角僅ニ溪谷ヲ通ジテ、富士ノ巨流此間ニ
奔注ス、國ノ東西凡二十里餘、南北凡二十二里強、
之ヲ一市九郡ニ分畫ス

甲府市以下郡東山梨、西山梨、東八代、西八代、南巨摩、

中巨摩、北巨摩、南都留、北都留本國ハ旧四郡ニ

テ溪谷四分ハ裂シ、地勢自然ノ小分畧ヲナシ、

各村落隨テ其位置ヲ異ニシタルガ故ニ、古來

慣例ノ邦制區畫、今尚其旧稱ヲ存スルモノア

リ、即旧四郡ヲ分テ更ニ九筋二領ノ區別ヲナ

シタル是ナリ、万力筋、栗原筋、以上東、西、八代、北、山、中、大

石和筋、小石和筋、以上東、西、八代、北、山、中、大

逸見筋、武川筋、西郡筋、以上南、中、北、巨摩、河内、領

巨摩八代郡内領、南北都留ト云フ、近時市郡ノ領

外土俗尚ノ往々此稱ヲ慣

用スルモノアリト云フ

地質

田圃

戸口

風俗

都邑
甲府

地質ハ中央平坦ノ土地總テ膏腴ニシテ、其他山

間ノ各地ハ大略肥瘠相半ス、田圃凡五萬二千七

百二十餘町

田一萬八千九百四十八町六反
圃三萬三千七百七十六町二反

戸數

凡八萬二千二十餘、人口凡四十三萬八千七百七

十餘アリ、風俗ハ尚中世以還ノ餘風ヲ脱セズ、概

シテ慄悍ニテ、皆能ク農業紡織ニ力メ、又往々行

商ニ從事ス、而シテ一般衣服ヲ華美ニスルノ風

習アリ

甲府ハ

德川氏ノ末世ニ代官治所ノ在リシ地ニ
テ、今山梨縣廳ノアル所ナリ○東京ヲ距

ル凡三十五里半強、静岡ニ凡二國ノ中央ニ當リ、

西山梨郡荒川ノ東ニ位シ、戸數凡四千六百五十

餘、人口凡一萬七千六百餘アリ、國中第一ノ都邑

物産

ニテ、市街端整、商賣殷賑ナリ、此國ハ夙ニ有名ノ
養蠶地ナレバ、此市中ニモ生絲製造ノ專業者頗
ル多ク、又葡萄酒、及麥酒ヲ製シ、近傍ノ各郡村ヨ
リハ多ク葡萄酒ヲ出ス、所謂ル甲州葡萄酒ト稱スル
モノ是ナリ

國中土地ノ形勢ニ因リテ其物産ノ概況ヲ録ス

ルニ、東西山梨、東西八代、南中北巨摩ノ七郡村ハ

皆米麥ヲ主作トシ、之ニ次グヲ綿、煙草〔綿、煙草共ニ中巨摩

郡ノ産額最多シ藍葉〔南中巨摩、及西八代三郡ノ産額最多シ〕トシ、併セテ養

蠶ニ從事ス、而シテ南北都留ノ二郡村ハ專ラ養

蠶紡織〔甲斐絹、黒八丈絹、琥珀織、傘絹〕ヲ業トシテ、

兼テ多ク甘藷、馬鈴薯ヲ作ル〔年額甘藷凡一千二百萬八千八百餘貫、

馬鈴薯凡三千七万一千四百餘貫以上
ノ産額其過半ハ皆北都留郡ニ出ス

予曩ニ此國ニ入ルヤ、東京ヨリ八王子街道ヲ

西行シ、高尾山南方ノ新道ヲ經テ、相州津久井

郡ノ北部野原、吉野、関ヲ貫キテ本國ノ上野原、

國中名邑ノ一ニテ戸數凡三百二十餘アリ、鶴

川、野田尻、犬目等ノ山道ヲ經過シタルニ、此道

ハ第三等國道ニテ、甲府ヨリ東京ニ通ズル本

街道ナレドモ、南北都留郡ノ大山脈蜿蜒蟠結

シタル頗ル險阨ノ地ニテ、沿道ノ村落皆山ニ

據リ、溪ニ沿ヒ、或ハ林杪ノ上ニ見ハレ、或ハ緑

樹ノ間ニ交リ、一溪ヲ降レバ、一山又其前ニ横

ハリ、至ル所平坦ナル一耕田ヲ見ズ、傾斜羊腸

猿橋

笹子峠

ノ山圃ハ概ネ桑園ニアラザルハナシ、路傍ニ
連ル隘小ノ農家ニモ尚戸々ニ紡織ノ音絶エ
ズ、問ハズシテ已ニ其産業ニ勉ムルノ狀況ヲ
知レリ、已ニシテ構造奇巧ノ名アル猿橋（桂川ニ架
シタル木橋ニテ長僅ニ十七間、中三間許、兩岸
絶壁ノ上ニ架設シ橋下一柱ヲ立テズ、兩岸ノ
石壁ヨリ鉅材ヲ累ネテ之ヲ支エ橋上ヨリ水
際ニ至ル凡六丈餘、清水深緑深サ亦六丈餘ア
リト）ヲ過ギ、大月橋（廣里村ニ在リ、桂川ヲ西ニ
云フ）ヲ渡リ、山脚ヲ繞リ溪水ニ浴ヒ、初狩（ハツカリサ）笹子ノ諸
驛ヲ經テ有名ナル笹子峠ニ登レリ、此峠ハ南
ハ八町、御坂（ミサカ）ノ諸峠ニ聯リ、北ハ田野、天目、水賊
等ノ諸高山ニ接シ、險峻崎嶇、一步一喘、登降凡
二里餘（荷車ヲ通ゼズ、物貨ヲ運搬スル者皆馬
背ニ拠ル、予此日車僕ノ外更ニ後押ノ

一夫ヲ賃シテ尚車行シタルモ其頂上ニ近ヅキ七折ノ所ニ至リテ遂ニ徒歩スニシテ駒飼、鶴瀨ノ二驛ヲ過ギ、勝沼驛此近傍ニハ葡萄ノ園頗ル多キヲ見ル所謂ル勝沼葡萄ト稱スルハ此地ノ産ナリニ至リテ始テ平路ニ就キ是ヨリ西南凡十里餘ノ間一帯ノ平野相連リ所謂ル甲州中央ノ沃野ヲ一望シ坦道砥ノ如ク車輪ノ運轉頗ル滑ニテ須臾ニシテ甲府ニ達スルヲ得タリ

本國ハ一般ノ人民皆能ク耕種紡織ニ勤ムルガ故ニ山溪原野尺寸ノ隙地モ概ネ耕耘ニ屬セザルノ地ナシ唯富士ノ裾野ハヶ岳信濃ノ境ノ南麓高

原野

原等今尚一帯ノ曠野ヲ存シテ曾テ開拓ニ就カザルモノ有ルノミ是等ハ皆水利不便ト地味磽

水利

富士川ノ
狀況

确トノ障礙アルニ因レバナリ、其他ハ山岡丘阜
ノ高地ト雖、大略泉水溪流ノ應用ニ乏キノ地少
シ、特ニ中央ノ平地ニハ、釜無 信濃ノ境ニ發源シ、
東南ニ曲流シテ、
吹川ニ會スル迄、
全長凡十八里、
會スル迄、
長凡十四里、
二川各地ノ支流ヲ併セテ、
周ク中
部ニ灌溉シ、遂ニ富士川ノ巨流トナリ、大ニ地方
運漕ノ利ヲ開キ、南流直下スルコト十有三里ニ
シテ駿河ニ入ル、之ヲ國中第一水利ノ據ル所ト
ス

富士川ハ本邦三急流 羽前ノ最上川、肥後ノ一
球摩川ト共ニ
ニテ、上流釜無川ヲ合セテ、駿河ノ海口ニ至ル
迄、全長凡三十六里餘、舟筏ヲ通ズルコト凡二

十九里餘ナリ、予曩ニ本流ノ狀況ヲ探グルガ

為ニ鰍澤

カシガサハ

富士川ノ西岸ニ在リ、戸數凡六百九十餘、甲府ヲ距ルコト凡四里半、強國

中名邑ノ一

二位シ、水運ノ物貨ヨリ一小舟凡長

輻輳ノ要地ニテ、市街殷盛ナリ

ヨリ一小舟凡長

六間、巾一對シテ塊坐ス

ヲ賃シテ、將ニ駿河

ノ岩淵

鰍澤

凡十八里ニ至ラントス、水勢急激ニシ

テ舟行爽快、飯富村ノ南ニ至リ、早川

白根ノ北岳ニ發源

シ此ニ至ノ流レヲ合セテ益其危險ニ驚キ、已

ニシテ舟ヲ西岸ノ一小村

身延村ノ内字大野

下ニ繫ガ

シメ、是ヨリ身延山ニ登リテ其幽景ヲ探リ、此

夜ハ身延ニ一宿シテ、拂曉復舟ニ就キ、歎乃一

聲ニテ下ルコト矢ノ如ク、或ハ層崖嶺岬タル

ノ岸下ヲ過グルアリ、或ハ急湍奔波ノ間巨巖

亂石ノ河中ニ
突兀タルヲ見
ルアリ、其舟行
ノ危険云フ可風
カラズ、而シテ岩
篙工四名舳艫崖
ニ配立シ棹ヲ曳
撐スルコト甚舟
熟ス、戾風岩弓ノ
立石、俵石等ノ圖
諸名勝皆瞬時
ニシテ過ギ、半



日ヲ費サズシテ既ニ岩淵ニ達スルヲ得タリ、
因テ試ニ其上下舟ノ難易ヲ問ヘバ、曰ク、下舟
ハ早クモ危険ノ憂アリ、上舟ハ遅クシテ水手
ノ勞苦之ニ倍シ、岩淵ヨリ多少ノ物貨ヲ載積
シ、其急湍ニ臨ミテハ、毎ニ數人ノ綱手ヲ要シ、
三四日ヲ經ルニ非ザレバ、鰍澤ニ歸ルヲ得ズ、
然レドモ此巨流ハ實ニ甲州南通ノ運河ニシ
テ、我々沿岸ノ人民ガ據テ以テ生ヲ保ツ所是
ノミト

此他東部ニハ桂川

富士山東北ノ麓ナル山中湖ニ發源シ、南北都留郡ノ諸溪

水ヲ集メ、榮田曲折シテ相模ノ流入ル、馬入川ノ上流是ナリ流アリ國中ノ水

利乏シトセズ、甲府ノ外市邑ノ名アル者ハ南都

市邑

留郡ノ谷村戸數凡八百餘アリ、甲西八代郡ノ市

川戸數凡一千餘アリ、甲府ノ南三里北巨摩郡ノ

韭崎濃戸數凡四百四十餘、甲府ノ西北三里餘、信等

アリ

又此國ハ南ニ富士山、北ニ八ヶ岳ノ火山脈アリ

テ、各地ニ溫泉ノ湧出スルモノ歟カラズ、氣候ハ、

他ノ山國ニ比シテ甚寒冽ナラズ、中央市邑ノ如

キハ殆ド中和ヲ得タルガ如シ

伊豆ハ、駿河、相模ノ中間ニ在リテ、其南方ニ突出

シタル一ノ半島國ニテ、東西南ノ三面海ニ臨ミ、

東西僅ニ七里餘、南北凡十四里、地勢、富士山脈ノ

南走シタルモノニテ、國中ハ總テ山岳重疊シテ

地勢

伊豆國

平坦ノ地甚少、中央ニ天城山高ク聳エテ、其餘

勢東南西ノ海岸ニ犬牙參差シ、

其海ニ没スルモ再ビ南洋中ノ

群島ヲ表出ス

山溪ノ水流ハ四面ニ分レテ皆直ニ海中

ニ注グ、其稍大ナルヲ狩野川トス、此沿岸ノ地僅

ニ平坦ニテ漸ク北ニ開ケ、駿河ノ境ニ接シテ田

圃始テ相連ナルヲ見ル、其他沿海ノ地港灣出入

ノ間ニ於テ、唯少ク平夷ノ地盤相接スルモノア

ルノミ、全土ヲ四郡ニ分畫ス

賀茂^{カモ}那賀^{ナカ}君澤^{クニタク}田^タ方^{カタ}

區畫

地質

地質ハ肥墳礫确相半シ、狩野川沿岸ノ地ハ概ネ

肥沃ニシテ穀果ニ宜シク、山間溪谷ノ地モ亦大

略耕種ニ適セザルハナシ、然レドモ全土ノ大半

田圃

皆山岳ニテ、耕耘ニ屬シタルノ土地少ク、現在ノ

田圃僅ニ一萬一千七百五十六町餘

田六千六百八十町五反

餘、圃五千七十
五町五反餘

ニ過ギズ、村落ハ北部平坦ノ地及

海岸港灣ニ沿ヒタル各所ノ低地ヲ除クノ外、内

部ノ山間ニハ人烟頗ル稀疏ニテ、空漠タル山中

人家ヲ見ザルモノ殆ド方三四里ニ亘ルノ地ア

戸口

リ、戸數ノ總計凡二萬七千七百五十餘、人口凡十

風俗

五萬四百八十餘アリ、風俗ハ地勢ニ據リテ大略

三部ニ分レ、天城山ヲ表トシテ山北、山南、山西ノ

區別アリ、山北地方ノ人ハ概ネ敏捷ナレドモ、忍

耐ノ力乏キノ傾キアリ、沿海市邑ノ地蓋シ皆之

ニ類ス、山南、山西ノ人ハ樸陋ニシテ能ク勞力ニ

堪へ

専ラ樵漁ヲ以テ生業トス

一般ニ虚飾浮薄ノ習ヒナキ

カ如シ

市邑

國中ノ市邑ニテ三島ハ

戸数凡一千四百三十餘
人口凡八千五百四十餘

箱根登坂ノ西口ニ當リテ、昔本道樞要ノ宿驛タ

リシヲ以テ其名著ク、韭山ハ

北條早雲ノ古城ニテ、幕政ノ頃代官所

ノ在リ田方郡沃野ノ中ニ在リテ、夙ニ名邑ノ稱

アリ、熱海ハ東岸ノ温泉場ヲ以テ聞エ、下田ハ東

南岸ノ良港ニテ、維新前外國船ノ投錨シタルニ

顯ル、然レドモ韭山以下ハ、其戸數皆千戸ニ滿タ

ザル小邑ノミ、其他ノ村落ハ更ニ記ルスニ足ル

者ナシ

物産

物産ハ水産ノ鰹節、乾魚、海藻

石花菜ノ類

ノ類ヲ以テ

第一トシ木材薪炭

前編山林ノ部ニ詳ナリ

之二次ギ山野ニ

ハ夙ニ牧場ヲ設ケテ各郡多少ノ牛馬ヲ飼牧セザルハナシ此地ノ産牛ハ形體短小ナレドモ其性質剛猛ニテ能ク山田荒地ノ耕耘ニ驅使スルニ適セ

此國ハ地水ノ出入最多ク海岸ノ周回凡六十里

餘其東南ノ一角ヲ凡水崎ト云ヒ其西ノ灣内ヲ

下田港

港内深八呎東西十八町南北三十町船舶數十艘ヲ容ル、二足ル然レドモ港頭地

狹ク陸地ノ交通頗ル不便ニテ將來繁華ノ途終ニ期ス可カラズ

將トス是ヨリ西

南沿海凡三里許ニシテ極南ノ一岬ヲ石廊崎ト

云フ此間ノ海上岩礁多ク無數ノ小嶼點々星羅

ス其大ナルヲ神子元島ト云フ石廊崎ト東西相

對シテ、各燈臺

神子元島ハ不動白色、高十六丈四尺、光達十九海里半、石廊崎ハ不動

紅色、高十八丈五尺、光達十海里

ノ設ケアリ、石廊崎ノ西北ニ當

リ、駿河灣口ニ臨ミテ、西南ニ突出シタル一角ヲ

波勝崎

一ニ雲見岬トモ云フ、岬頭ノ山ヲ烏帽子山ト云ヒ、又御嶽トモ云フ、航客常ニ此山

ヲ以テ望ト云フ、共ニ以テ南洋航海ノ標トスル

所ナリ

伊豆七島及小笠原群島

伊豆七島ハ富士山脈ノ南奔シテ海中ニ噴起シ

タルモノニテ、陸地ヲ距ルコト最近キヲ大島、利

島

共ニ伊豆ノ丸木岬ヨリ凡ハ里十八町

ノ二島トシ、新島

式根島之ニ属ス、利

島ノ南凡二里ニ在リ

神津島

新島ノ西凡三里

ノ二島ハ漸次ニ西

南ニ相距リ、三宅島ハ神津島ノ東々南凡八里ヲ

隔テ、御藏島又其南少東四里半ニ在リ、是ヨリ同
方位ニ向テ更ニ二十里ノ所ニ在ルヲ八丈島_{田下}
港ヲ距ル凡_{トス}、以上ヲ通ジテ伊豆ノ七島ト云
フ

予曩ニ伊豆七島、及小笠原諸島ヲ實歴スルノ
違ナカリシニ由リ、之ヲ知友ニ質シ、又更ニ東
京府廳ニ請ヒテ、其引用書數種ヲ得、以テ始テ
此項ヲ大成スルニ至リシハ、是予ガ望外ノ幸
ナリ抑此南海ノ諸島タルヤ、本道ノ陸地ヲ距ル、近
キハ八九里ヨリ、遠キハ二百六十七里ノ間
ニ在リテ、古來全ク航海敢テ難シト云フニアラ
ズ、而シテ古來全ク絶海異域ノ外ニ放棄セラ
レタタルノ有様アリテ、其島民ノ死生狀況擧テ
コレヲ存問スルノ人ナシ、況ヤ其產物ノ奈何
ヲ探ルニ於テヤ、今其島誌ヲ讀ムニ及ビテ、
大ニ其將來ニ期スル所アルヲ喜ビ、又大ニ歎
息措ク其能ハザルノ事實少カラザルヲ思ヒ、遂
ニ特ニ諸島ノ狀況ヲ本道ニ附記スルコト爾

大島

大島ハ、東西二里半、南北五里餘、周回凡十里半強、

島中ニ六村アリ、新島（モジマ）、岡田（イグミ）、泉津（イグミ）、波浮（ハフ）、差水（サシ）、地野（チノ）、増

ト云フ、戸數一千七十三、人口凡四千九百九十餘

男二千三百二十二（男）、女二千六百七十六（女）、アリ、地勢險峻ナラザレドモ、

中央部ニ三原山高ク聳エテ、頂上常ニ噴烟ス、山

圃ノ總計ハ凡八十九町六反餘、地質概ネ薄瘠ニ

テ穀果ニ佳ナラズ、住民皆漁業ヲ主トシテ、旁ラ

農樵ニ從事ス、農産ハ麥、粟、甘藷、青芋ノ類ヲ作ル、

然レドモ其收穫ノ高僅少ニシテ、島中ノ食ニ充

ツルニ足ラズ、魚薪ヲ陸地ニ鬻ギテ僅ニ衣食ニ

交換ス、風俗樸野ニシテ男女共ニ能ク勞働ニ就

ク、男子ハ散髪推髻相半シ、婦人ハ概ネ養老絞ヲ

利島

以テ頭ヲ纏ヒ、少ク髻ヲ見ハシ、衣服ハ大略陸地
人ノ風装ニ擬シ、各村ニ小學校各一校アリ、南部
ノ波浮村ニ一小港西岸ノ新島浦亦アリテ、常ニ
船舶ノ碇泊スル所タリ全島ニテ漁舟百六十七艘、回船四十七艘ヲ有セ
リ、利島ハ、方凡半里許リ、周回二里餘ノ小島ニテ、
中央ニ一小山宮塚山ト云フ、高一千七百三十六尺餘アリ、地勢險峻、
海岸ハ概ネ懸崖壁立シテ、前濱ノ一所僅ニ舟ヲ
揚グルヲ得ルノミ、波暴久波止場ナクシテ一舟モ繫グヲ得ズ、皆岸ニ引揚ゲ
置クノ島中塊石壘々トシテ平地少ク、人家五十
三戸、各地ニ散在シテ一村落ヲナシ、人口凡三百
七十餘アリ、男百二十八女百四十七風俗淳朴ニシテ男女皆
等ク採薪農耕ニ勤メ、旁ヲ漁獵ヲ兼ヌル者アリ、

〔漁舟六艘、田船一艘ヲ有ス〕

一般ニ粗衣粗食

〔麥、粟、甘藷、里芋ヲ以テ常食トス〕

圃地僅ニ七町餘ノミ、然レドモ地味頗ル膏腴ニテ、甘藷、青芋類ノ成熟極テ宜シ、島中井水ナク、雨水ヲ溜メテ飲料トス、旱災ノ時ハ或ハ之ヲ隣島ニ汲ミ、或ハ遠ク下田ニ取ルト云フ

新島

新島ハ、東西二十町、南北三里、周回凡七里弱、地勢險ナラズ、唯宮塚山ト云フ一小山アリテ、村落交通ノ道路險惡ナルノミ、其他ハ平坦ノ土地多クシテ、圃地凡七十八町餘アリ、地質ハ概ネ砂土ニテ薄瘠ナリ、全島ニ二村アリテ本村ホシムラ若郷ワカサトト云フ、戸數通ジテ四百九十一、人口凡二千七百五十餘男一千二百六十二、女一千四百九十二アリ、風俗ハ概シテ質朴ナレ

ドモ、男子ハ稍粗暴ナルガ如シ、衣服ハ綿織或ハ
ものゝ〔麻ニ類ス〕ト稱スルモノヲ着シ、麥、粟、及甘藷ヲ

以テ常食トス、男子ハ專ラ漁業ニ從事シ〔漁舟七艘〕

回船七艘アリ女子ハ耕種ヲ主トシテ兼テ紡織ニ勉ム、

村中ニ小學三校アリテ村童皆能ク就學ス〔學齡兒童〕

三百六十二名ノ中、就學百二十名アリ水産ハ乾魚、鰹節、及海草類、

陸産ハ椿油、椎實等ヲ出シ、織物ハ白紬、水綿、縞、麻

織等トス、然レドモ、以上ノ諸産物皆僅々ノ少數

ニテ、島産ト云フニ足ラズ、山原中ニハ曾テ十數

頭ノ牛ヲ放牧シタルモ、能ク蕃殖セシムルニ至

ラズ

本島ノ南凡半里弱ニシテ、式根島ト稱スル屬島

アリ、〔周回凡一里餘〕人家ナクシテ全島唯樹木ノ鬱蒼タルノミ

神津島

神津島ハ、〔東京ヲ距ル凡八十五海里餘〕東西一里半強、南北一里

餘ニテ、周回凡五里アリ、地勢險ニシテ中央ニ天_{テシ}

城山_{ジヤウサン}、〔高凡二千尺餘〕ト云フ一高山巍峨タルアリ、島民皆

此山ニ據リ、海ニ沿ヒテ一村落ヲナス、戸數三百

七、人口凡一千七百四十餘〔男七百九十四、女九百五十二〕圃地僅

ニ二十三町餘アルノミ、風俗衣食生業ノ狀況及

物産ノ種類等ハ、以上ノ諸島ト大略相類似ス〔漁舟〕

四十一艘、回船一艘ヲ有セリ

三宅島

三宅島ハ、〔東京ヲ距ル凡八十三海里餘、伊豆ニ凡二十里〕東西二里、南北

四里、周回凡八里餘アリ、地勢險ニシテ平曠ノ地

少ク中央ニ上山（一ニ雄山トモ云フ、又ト云フ、一

火山アリ、明治七年七月（三）噴火シ、山頂ヨリ海岸

ニ至ル迄方凡四十町許、廣漠ナル砂礫ノ地トナ

リ、其巔陷没シテ今尚時ニ烟ヲ吐ク、山脚ノ南濱

ニ溫泉アリ、此近傍ハ岩石嵯峨トシテ頗ル險峻

ナリ、（七）島誌ヲ按ズルニ、本島ノ噴火シタルモ、

百四年應仁ノ間、前後ハ（四）明治七年ニ至ル迄通シテ

ルニ應仁三年十一月（一）及ベリ、今其年次ヲ録ス

天文四年二月（三）文禄四年十月（三）寛文二年十月

年二月（四）正徳元年十二月（五）文治七年七月（八）正

六回天保六年九月（七）明治七年七月（八）トス、

住シタリ島人皆山ヲ遶リテ部落ヲナシ、村數五、

伊谷神着伊豆坪田阿古ト云フ、戸數八百七十四、

人口凡三千餘（男一千三百七十九、女一千六百五十八）アリ、風俗人情

及衣食ノ現狀等ハ略前諸島ニ相同ジ、

〔女子ノ風
装稍諸島

ニ異リテ妻女ハ皆長一尺巾五分許リノ木片ヲ
赤ク塗り、髻ノ間ニ挿ミ、手巾ヲ以テ頭ヲ纏フヲ

生業ハ一般ニ農漁ヲ勤メ、男女皆其勞働ヲ一二

シ、處女ハ耕種ノ餘暇皆紡織ニ從事ス、諸村ノ圍

地合計凡百二十六町餘、地質ハ概ネ燒灰薄瘠ノ

砂地多クシテ、穀果ニ佳ナラズ、然レドモ氣候極

テ溫暖ナルガ故ニ、山野ニハ草木

〔山野共ニ椿木
頗ル多ク村落

ノ周圍皆此水ヲ栽培シ、能ク繁茂シテ、四時秋色

ヲ見ズ、山中ニハ牛馬數十頭ヲ放牧セリ、本島モ

亦利島ト同ク水ニ乏ク、常ニ天水ヲ渚溜シテ飲

料ニ供ス、物産ハ鰹節、乾魚、及海草ノ類ヲ第一

トシテ、又多ク薪ヲ出シ、皆遠ク關東地方ニ輸

御藏島

出ス

御藏島ハ一ニ三倉ニ作ル、三宅島ノ南、少東凡四里十八町許ニ在リ、東京ヲ距ル凡九十

五海方凡一里餘、周回僅ニ四里許ノ小島ニテ、地

勢險絶船舶ノ投錨スベキ港灣ナシ、岡巒起伏ノ

間ニ村落ヲナシ、戸數七十二、人口凡二百六十九

男百二十六、女百四十三アリ、風俗樸陋ニシテ、樵漁農耕ニ勉

メ、島外又世界アルヲ知ラザルガ如シ、漁舟七艘、回船二艘

ヲ有全島ノ山圃切返シ畑ト僅ニ四町餘、粟、麥、及

甘藷、青芋ノ類ヲ作り、山林ニハ、柘、杉、椎、及雜木能

ク蓊茂ス、島人常ニ柘ヲ伐リ出シテ、遠ク東京地

方ニ輸出ス、其收價極テ小數ナラズ、島中ノ諸税

賦、及其他生計ノ一斑皆之ヲ以テ基本トスト云

八丈島

フ僅外此外鯉節、推葺等ノ産アルモ、皆

八丈島ハ

〔東京ヲ距ル百六十五海里〕

東西二里半、

南北凡四里、周回凡十里半弱ナリ、地勢險ニシテ、

西北海岸ニ甌峰

〔一ニ西山ト云ヒ、又ハ一丈富士トモ云フ〕

ト云フ、一峰

屹立シテ、山巔常ニ烟ヲ吐ク、是ヨリ迤南ノ中央

二三原山更ニ高峻ヲ極メ、

〔頂上凹陥シテ古代噴火ノ跡ヲ存シ、大小ノ

二湖アリ、其流レ山麓諸村ノ水トナリ、満山樹木鬱蒼タリ〕

山脚四方ニ蟠結

シテ、其周回凡全島ノ七部ヲ占メ、南北ノ岡巒皆

此支脈ニ非ザルハナシ、五村落アリテ此山腰ヲ

圍繞ス、大賀郷〔オホガ〕、三根〔ミツネ〕、末吉、中郷〔ナカガウ〕、檜立〔ヒノタテ〕ト云フ、戸數一

千八百五、人口凡八千五百餘

〔男三千九百九十、女四千五百十〕ア

リ、風俗ハ本淳朴ノ聞エアリシモ、近時ハ一般ニ

浮薄遊惰ノ弊アリ、男子ハ農漁ヲ主トシ、女子ハ
専ラ紡織ニ從事シ、一家經理ノ權皆其自ラ任ズ

ル所ニテ、自然ニ女尊男卑ノ風習アリ、（女子ノ風

島人ニ類似シ、總テ綿織ノ衿、單物ヲ服シ、細帶ヲ

前ニ結ビテ、概ネ上衣ヲ襲フ、髮ハ島田髷ノ根

ヲ緩ク束ネ、老若共ニ皆紙ニテ結び、常ニ手巾ヲ

纏ヒ、物ヲ運搬スルニ頭上ニ戴ク、一般ニ風俗頗

ル猥褻ニテ、其弊ノ及ブ所云フニ忍ビザルモノ

アリ、然レドモ是等ハ獨リ本島ノミナラズ、他ノ

六島亦大略然ラザ、食物ハ甘藷ヲ以テ主トシ、米

ルハナシト云フ、（食食物ハ甘藷ヲ以テ主トシ、米

麥ヲ食スルハ甚稀ナリ、清酒ナク、唯甘藷ニテ製

シタル焼酎、及濁酒ヲ嗜ムノミ、（一）種ノ酒アリ、色

真黒ニテ酸味アリ、下等

人民皆之ヲ飲料トス

全島中田圃ノ總計凡三百三十九町九反餘、（田六

町二反餘、（七島中ニテ田アルハ獨リ本島ノミニ

シテ、米穀ヲ産スルノ多キモ亦一ニ本島ノミ）圃

二百七十六町六反餘、此農產年計〔明治十九年、米凡八百二十八石餘、甘藷五十七萬四千四百七十石、餘粟四百七十五萬三千九百二十餘貫、其他蘿蔔、蕪菁、蚕豆、豌豆、蜀黍、瓜、類ヲ產ス、以上ノ穀果〕地質ハ肥礫相半ハ皆島民一般ノ食料ニ充ツ

ス、氣候極テ溫暖ニテ、年中降雪ナク、雨多クシテ、時々颶風ノ憂アリ、山野ニハ草木凋枯ノ期ナク、極暑頗ル酷烈ナリ

本島ノ重ナル物産ハ、織物ヲ以テ第一トシ、〔明治

年中ノ織高ハ丹後織三千五百九反、飛紬六千十反、二反、紬織一千四百六反、太織七百六十反、八丈、鳶三、綾丹後、綾帶地、白紬上平紬等種々ノ織物アリ、頗ル精巧ニテ世ニ所謂ルハ丈絹ノ名、声空シカラズ、其品質モ亦極テ美麗ナリ、○此織物ノ洟料ニハ、專ラ椎皮、佐江麻草、之ニ次グヲ海產物ト多美蓋ノ類ヲ用フト云フ

シ、鮑ヲ漁スルコト極テ夥シ、〔十九年中ノ漁獲五

個百 其他ハ鮫、鰹、及種々ノ雜魚、竝ニ海草ノ類ニテ、

其海産ノ多キコト獲テ盡ス可カラズ、而シテ全島四周總テ懸崖峭立シ、危礁岸ヲ遶リテ、船舶ノ碇泊スベキ港灣ナク、其漁舟、及回船皆險崖絶壁ノ間ニ轆轤ヲ施シ、大綱ヲ懸ケテ高ク陸上ニ引揚ゲ置キ、又之ヲ釣リ卸ス等ノ困難アリ、加フルニ近海常ニ風濤暴クシテ潮流ノ方位一定ナク、構造薄弱ノ小舟動モスレバ覆没破壊ノ憂アリト云フ

全島ニ漁舟四十三艘、回船六艘ヲ有スルノミ

又甌峰ノ山間ハ天然牧場地ニ適シ、百草繁茂シテ四時絶エズ、現時放牧シタル牛數凡二千四百四十餘頭アリ、然レドモ島民之ヲ愛養蕃殖シテ

陸地ニ輸出スルノ企圖ナク、唯主トシテ牝牛ヲ
愛牧シ、時ニ鬪牛ノ遊ビヲ為スニ過ギズ、牝牛ノ
如キハ敢テ顧ルモノナク、往々饑死ニ至ラシム
ルコトアリト云フ

本島ノ西海上二里許ニ小島ト稱スル一屬島アリ、
東西半里強、南北一里餘、巉巖壁立シ、地勢頗ル
險峻ナレドモ、海ニ沿ヒ山ヲ遶リテ二小村アリ、
鳥打字津木ト云フ、戸數九十三、人口凡四百四十
餘、山ヲ耕ヘシテ圃トシ、溪ヲ闢キテ園トシ、或ハ
甘藷ヲ作り或ハ桑ヲ栽エ、各其生ヲ營ムノ狀況
ハ總テ本島ニ同シ、唯島中水ナク、天水ヲ仰ギテ
僅ニ渴ヲ醫スルノミ、男女皆曾テ湯浴セズ、是ヨ

小笠原群島

小笠原群島ハ

伊豆ノ八丈島ヲ距ル南
少東凡百八十里ニ在リ

本邦版圖

リ正南凡十八里許ニシテ青ヶ島ト云フノリ、亦
本島ニ屬セリ東西一里餘、南北一里半、地勢亦險
絶、海岸四周危崑峭立シテ、繫舟ニ便ナラズ、然レ
ドモ島内凹陷シテ平曠ノ地アリ、以テ耕種ニ宜
シ、村落亦ニアリ、休戸末吉ト云フ、戸數百四十四
人口凡七百四十餘、甘藷ヲ食トシ、漁業ヲ營ミ、又
能ク紡織ニ從事ス、島誌ヲ按ズルニ此島天明中
ニ二回三年五年ノ噴火アリ
テ島中過半焦土トナリ、住民ノ大半死亡シ、其殘
ル者僅ニ遁レテ本島ニ移リ、全島久ク無人ノ地
トナリシモ、其後文化十四年ノ頃ヨリ復漸次ニ
歸住スル者アリテ、後遂ニ今ノ村落ヲナシ、山圍
ノ耕耘ニ屬スルモノ凡三十四
町餘ノ多キニ至レリト云フ

小笠原群島

ノ極南ニ位シ、北太平洋阿西亞尼亞洲中ニ斗出
シ、北緯二十六度三十八分ニ起リ、二十七度四十
分ニ至リ、東經百四十二度二十二分ヨリ、百四十
二度三十三分ニ盡ク、全島ノ排置北ヨリ南ニ亘
リテ、大小八十九島、碁布星羅ス、之ヲ中南北ノ三
部ニ畫シ、中部ヲ父島群島トシ、南部ヲ母島群島
トシ、北部ヲ婿島群島トス、〔歐米人曾テ全島ヲ稱
シテ「ぼにん」ト云フ、蓋
シ無人ノ轉後陽成天皇ノ文祿二年〔明治二十二
年ヨリ二百
九十七、小笠原貞頼初テ之ヲ發見シタルニ著ハ
ル、後世遂ニ以テ名ヲ命ズ、然レドモ當時戰國ノ
末ニテ移住ヲ圖ル者ナク、尚久ク無人ノ地タリ
シニ、仁孝天皇ノ天保元年ニ五名ノ歐米人布哇

島ノ男女十七名ヲ伴ヒテ始テ父島ニ來住セリ、
之ヲ本島住民ノ嚆矢トシテ、其後嘉永六年（西曆
八百五
十三年）米國ノ水師提督彼理父島ニ上陸シ、島治
ノ法制ヲ定メテ其所屬ト稱ス、已ニシテ文久二
年幕府吏ヲ遣リハ丈島ノ人民四十名ヲ移シテ、
更ニ我版圖ニ復ス、未一年ナラズ、内國多故ヲ以
テ府吏皆歸國シ、ハ丈ノ島民モ亦各相繼テ其舊
里ニ歸リ、後復之ヲ顧ミルノ遑ヲ得ズ、明治八年
ニ至リ官再ビ吏ヲ遣リテ、島民ヲ慰撫シ、更ニ内
地人ヲシテ多ク移住セシメ、務メテ諸島地ヲ開
拓セシム、十一年ニ獨逸人（フレデリッ
キローリス）初テ母島
ニ歸化入籍セシヨリ、父島ノ歐米人等モ亦皆相

繼デ歸化入籍シ、當時島中ニ地ヲ有シテ、生ヲ營

ム者悉ク皆我國民ニ非ザルハナシ、官亦特ニ其

保護ヲ厚クシテ、頗ニ其開墾ヲ援ク、二十年中

全島

現在ノ移住民戸數二百五十六、人口一千七十六

内歐米ノ歸化人戸數二十、人口七十二成墾圃地凡百九十六町九反

餘、宅地凡十町四反餘、是歲内地ヨリ全島中ニ購

輸シタル物品ノ價一萬二千六百十一圓九十錢

ニテ、島産ヲ内地ニ販賣シタル收價ハ實ニ一萬

九千六百六十五圓二十五錢ナリキ、以テ南洋ノ

絶島中創業住民ノ勤勉ト其島地ノ産物ニ富メ

ルト、相比シテ知ルベキナリ、茲ニ其群島中重ナ

ル島嶼ノ概況ヲ録ス

父島

中部父島群島

父島ハ〔小笠原全島ノ中央ニ在リテ本島ト稱ス、又母島ニ對シテ北島トモ云フ、歐人呼テ
此名ヲ唱フ品川港ヲ距ル五百三十六海里〕東西
凡一里半強、南北二里弱、周回十五里半、地勢山岡
起伏シテ平夷ノ地少ク、地質ハ肥磽相半シ諸山
嶺概ネ禿兀ニシテ、腰腹以下ニ非ザレバ樹木繁
茂セズ、氣候極テ溫燠ニテ年中冬期ナク草木凋
枯セズ〔極寒攝氏十二度ニ下ラズ〕甘藷〔タロ〕芋、蒼白ノ類播種其
期節ヲ撰バズ、極暑中〔七月末ヨリ、九月ノ始ニ至ル〕ト雖、炎熱却
テ甚酷烈ナラズ〔攝氏三十四五度ヲ出デズ〕空氣流通ノ室ニ
坐シ、或ハ綠樹ノ清蔭ニ在レバ、更ニ其煩熱ヲ感
ゼズ、且其暑熱ノ時間甚短クシテ、日ノ晷ルニ隨

テ海面水烟ヲ生ジ、林叢爽氣ヲ送リテ、涼味人意
ニ適ス、此ノ如キハ獨リ本島ノミナラズ、南北部
ノ群島大略然ラザルハナシト云フ、島中ノ住民
各相集リテ部落ヲナスモノ凡十九所、大村、宮之濱、釣濱、奥村、展風谷、扇浦、洲崎、二子村、小曲村、北袋澤、南袋澤、南崎村、天之浦、巽港、長谷村、時雨山、畚浦、衆木山、初
寢戸數通シテ凡百七十餘、人口凡五百八十餘、此内
大村ハ二見港ノ西北岸ニ在リ、明治十五年島廳
ヲ此地ニ置キテ以來、漸次ニ市街ノ狀況ヲナシ、
戸數ハ八十、人口凡二百九十餘、成墾圃地凡八十
四町三反餘アリ、風俗ハ氣候ニ據リテ自ラ内地
ト相異ナルモノアリ、且現今住民ノ過半ハ皆ハ
丈島人ニテ、其他ハ各府縣人ノ相集合シタル者
ト、外國歸化人等ト彼是混合ノ聚落ナレバ、種類

一様ナラズ、歸化人ハ元來彼國下等ノ雇夫等ガ
各其郷里ニ樂シムコト能ハズシテ、此絶域ニ移
住シタル者ナルガ故ニ、皆其國語ヲ用フレドモ、
文字ヲ綴リ得ル者ハ、僅ニ其一二名ニ過ギズ、然
レドモ已ニ來住ノ久キ漸ク資産ニ富ミ、家屋ハ
陋隘ナルモ室内ニ寢臺アリ、椅子アリ、厨庫ヲ別
ニシ、其器具モ亦概ネ歐洲風ノモノヲ用ヒタル
アリ、八丈島人及其他ノ移住人ハ一般ニ隘小ノ
家屋ヲ構エ、市街ニ在ル者ノ外ハ大略板敷ノ上
ニ起居シ、男子ハ常ニ毛布綿布等ノ襯衣ヲ着ケ
狹袴ヲ穿チテ、頭ニハ草帽ヲ戴キ、多クハ徒跣ナ
リ歸化人ノ婦女ハ筒袖ノ和服ヲ用ヒ、頭髮ハ概
風裝ナリ

屬島

ネ捲纏ス、食料ハ米飯ニ魚菜ヲ用フルコト、大略内地ノ村落ニ異ナラズ、歸化人ハ專ラ^{キヌカクダ}蠟龜ノ肉ヲ食シ、其膏膩ヲ以テ菜蔬ヲ煎熟シタルモノヲ嗜ミ、又能ク火酒ヲ飲ミ、喫烟口ヲ放クザルニ至ル、而シテ一般ニ能ク開墾ニ從事シ、男女各其勞働ニ就クノ風アリ

野^ヤ羊^ギ島

周回二十九町、野羊多ク蕃、兄島周回四里、三十一町

地勢峻絶ニシテ開墾スベキ土地ナク、又繫舟^{ニ便ナラズ、近時野羊二百餘頭ヲ放牧セリ}弟

島

周回兄弟島ニ同ジ、土壤膏腴ニシテ平地多ク、草

ス、現時人家僅ニ水利ニ乏シカラズ、頗ル開拓ニ適

多ク、栖息シ、耕種ヲ害スルノ憂アリ、西島周回一

島平地多キモ樹木少クシテ水ニ乏シ、現及其他

近傍數多ノ島嶼ト皆父島ノ屬島ナリ

母島

南部母島群島

母島ハ

父島ノ南、微西十二里ニ在リ、父島ニ對シテ南島ノ稱アリ、品川港ヲ距ル五百六十

五海

東西一里二十六町、南北三里、周回十里、父島

ヨリ稍小ナレドモ地勢險ナラズ、地味肥沃ニテ

礫石少ク、樹木能ク蓊茂ス、近時開拓ノ事業大ニ

進ミ、移住民ノ部落ヲナスモノ六所

沖村、脇濱、西濱、長濱、北村、

南戸數凡一百餘、人口凡四百八十餘

此内沖村ハ

ニ在リテ戸數六十七、人口凡三百五十餘アリ、自然ニ市井ノ狀ヲナシ、本島中第一ノ要區ナリ、

成墾圃地凡百六町三反餘アリ、島中水利宜ク、地

味頗ル耕種ニ適スルモ、海岸ニ船舶ヲ容ルベキ

良港ナクシテ

島ノ東北隅ニ北港ト云フアリ、稍舟ヲ容ルベシ

他ノ諸島

ト交通稍不便ナリ、住民ノ風俗ハ總テ父島ニ異

屬島

ナルコトナシ、唯本島人ハ專ラ甘藷玉蜀黍ヲ以テ常食トシ、米飯ヲ食スル者少キノミ

向島

樹木矮小ニテ、泉水大半枯禿ニシテ地勢險絶

平島

樹木一里十二町、地勢險ナラズ、唯丘陵狀ヲ

野系及七面鳥等

姊島

田二里餘、海岸絶壁峙立

中地味肥沃ニテ草木繁茂

豚數頭ヲ放牧セリ、此

雖、メリノ洋ニテ草多ク、豚數頭ヲ放牧セリ、此

島中ニハ緑銅色ノ大鵝多ク、栖息ス、之ヲ捕

妹島

フルコト容易ニシテ、其味甚美ナリト云フ

周回一里二十五町、地勢險絶、海岸高ク聳エテ攀

登スベカラズ、島中ニ樹木ノ鬱蒼クルヲ見ルノ

及他ノ小嶼ト皆母島ニ屬ス

北部聳島群島

聳島

父島ノ北凡十八里餘ニ在リ、品東西二十

三町、南北二十町、周回凡三里餘、地勢岡陵丘阜相

屬島

連綴シテ一小山ナシ故ニ遠望殆ド一帯ノ平地
ヲ見ルガ如シ、〔形ニ因リテ一ニ〕平島トモ稱ス、地味膏腴ニシテ
草木茂生シ、南海濱ニ清泉アリテ飲料ニ乏カラ
ズ、明治十四年田中鶴吉リシコロシ種羊六頭及
牛、豚數頭ヲ携ヘテ來住シタル地ニテ、現時其徒
南海岸ノ埠頭ニ屋舎數戸ヲ連築シテ、〔初寢村〕圃
地三町餘ヲ開拓シ、牛三十五頭、羊四十頭、野羊、豚
各凡百餘頭ヲ放牧シ、旁ラ天日製鹽ヲ業トス、又
其徒二名北海岸ノ港頭ニ分住シテ、専ラ開墾ニ
從事セリ、此徒ハ皆魚鳥獸ノ肉ヲ常食トシテ、穀
食スルコトハ甚稀ナリト云フ

媒島

〔周回二里半強、海岸絶壁ニシテ砂濱ナシ、唯南岸ニ一小港アリテ僅ニ舟ヲ容ルベシ、之〕

ヲ袋港ト云フ、島中二小湖アリ、以テ飲料トスベシ、地味肥沃ニテ草木能ク茂生ス、明治十六年、島ノ徒其中央南岸ノ地ニ移住シテ、圃地凡二町餘ヲ開墾シ、家屋ヲ連築シテ盛ニ耕牧ニ從事シ、現時山羊凡六十頭、豚凡百餘頭ヲ嫁島周回二里放牧シ、又天日製塩ヲ兼業セリ、嫁島半強全島充兀ニテ僅ニ萱茅ノ叢生スルノミ、海岸繫及近舟ニ便ナラズ、現今野羊數頭ヲ放牧セリ、傍ノ諸島嶼ト皆聶島ニ屬ス

已ニ諸島現時ノ概況ヲ誌シ終リタレバ、茲ニ又其產物ノ一斑ヲ録センニ、此群島ハ氣候頗ル和煦ノ位置ヲ占メテ、幸ニ地味モ亦耕種ニ適シ、土壤狹隘ナリト雖、其地力ハ尚住民數千人ヲ養フニ足リ、其良好ノ植物ヲ產スルノ多キハ本邦南海中ノ一寶庫ヲ以テ稱スルニ足ルベシ、加フルニ水產興發ノ事業漸ク進ミテ、我捕鯨ノ船旗ヲ

此島岸各地ニ鹽麴スルノ曉ニ當ラバ水陸ノ物
 産ハ穰々トシテ庫中ニ上リ、父島ノ二見港ヨリ
 横濱ノ埠頭ニ往來スルノ瀛船ハ五百二十八海
 里ノ航路ニ其黒烟ヲ絶タザルノ盛況ヲ見シコ
 ト、亦必ズ空想ノ現象ニ非ザルヲ知ルナリ
 此群島ノ地味氣候ニ適シテ、將來大ニ望ム所ノ
 物産ハ

山 靛

明治二十年中島地ニテ製造試験ノ結果

シ、此生葉四百五十貫ヲ收穫シ、之ヲ以テ製造
 シタル藍靛二十五斤餘、此價八圓八十錢二
 厘ナリ、右ハ一回ノ收穫高ナレドモ、一ケ年二
 回ノ收穫ハ通常容易ナリトス、此一收穫ノ藍
 ヲ製スルニハ、一反歩ニ付石灰四十五貫ヲ用
 ス、此價一圓十二錢五厘ナリ、以テ其收穫ノ利
 潤ヲ知シ

甘蔗

〔本島ニ四種アリ、廣東種ヲ以テ最佳トス〕

烟草

〔諸島ニ自生シ、風潮ヲ忌マズシテ能ク繁茂ス、高五尺以上ニ至リ、葉ノ大尺五六寸、乃至二尺、頗ル香氣ヲ薰蒸シ、洋烟ノ美ナルモ、ノニ同ジ、蓋シ此原種ハ外人ノ船載ニ始リ〕

シヤ

〔知ルベシ、或人コレヲ外ノ洋船載ニ始リ〕

葛芋

〔此種ハ球根ト云ヘリト〕

至七

〔八寸、葉モ亦粗蕒蕒、葉ニ類セリ、徑五六寸ノ〕

砥地

〔宜シトス、其期節定リナク、概ネ六ヶ月〕

極ニ

〔上テ採掘シ得ベシ、此球根ノヨリ、澱粉ヲ製反〕

歩目

〔テ大略シ根ハ百〕

鳳梨

〔英語パイン、群島中大略栽培セザルハナ〕

繁茂

〔生熟ス、其果實ハ甚大ニシテ、味甘酸多漿〕

トシ

〔又之ヲ糖藏シ、或ハ糖菓ヲ製シ、或ハ糖水〕

香蕉

〔内地産セリ、芭蕉ニ類ス、本島ニ果實ハ四時ニ〕

實相繼ギテ絶ユルコトナシ、果實ハ四時ニ

生食ニ止ラズ之ヲ酒精ニ釀造シ又醋酸ニ製
スベシ又其蕉莖ヲ割キテ之ヲ乾製シ茵蓐敷
物其他提籃葛籠等種々ニ編造ス其品質雅致
アリテ且強固ナリ又蕉身ノ液汁ヲ取リテ純
良ノ液ヲ
獲ベシ
檸檬 各島栽培セザルノ地ナシ此樹ハ杆挿壓
ス實ニ生ニ依リテ繁殖シ二年ヲ經レバ能ク結實ス其花
實四時相繼テ唯酷暑ノ候少間絶ユルコトアラ
ズ初ハ緑色ニ熟シテ船舶來ノモ異ナラ
五六厘ヨリ七八厘ニ過ギズ皮ヲ裂ケバ香霧
鼻ヲ撲チ執囊十一二個ヲ包有ス沙瓢峻酸ニシ
テ漿液極多シ其漿液ニ砂糖ト水ヲ調和シ
之ヲレモネドト稱シ清涼ノ飲料ニ供ス又
藥用シテ強壯清涼ノ効アリ又外皮ヨリハ
檸檬油ヲ採リ果實ハ糖藏シテ頗ル上等ノ佳菓
トスルヲ
得ベシ
咖啡 明治十二年ノ頃ヨリ漸次ニ栽培シテ
モノ已ニ三萬餘本
ニ至レリト云フ本
味ニ適シ當時茂成收實ノ

椰子

〔本島ノ地味ニ適シ明治九年ニ下種シタルモノ、今各所ニ繁殖シテ皆二丈五尺餘

ニ暢育シ、漸次結實スルニ至レリ、子實ノ纖維ニテ敷物粗布等ヲ織リ、或ハ繩トシテ網具ニ用ヒ、又仁ヨリハ椰子油ヲ取リ、又其漿液ニテ酒ヲ醸スベシ、其白肉ハ調理ニ用フベシ、葉ハ以テ屋ヲ葺キ、又莖ヲ織リ、及

筐、帽

子等ヲ製スルニ宜シ

右載スル所ノ外、甘藷、玉蜀黍ノ産ハ皆以テ島民

ノ食料ニ充ツルニ足リ、山野ノ樹木ハ屋ヲ構エ、

船ヲ造リ、及薪炭ノ用ニ充ツベシ、唯全島能ク人

力ヲ盡シテ開拓其効ヲ奏スルニ至ラバ、牛、豚、野

羊ノ類ヲ放牧スルノ餘地ニ乏キノミ

水産ハ群島近海ニハ鱗族海獸ノ常ニ輻輳スル

所ニシテ其最多キヲ鱈、鯨ノ類トス、其他沿海ノ

雜魚、海草等ハ内地ノ沿海ニ在ルモノト大略其

種類ヲ同クス、獨リ蟪龜ト稱スル一種ノ大龜ハ
 本島ノ特産ニシテ、他ニ其類ヲ見ズ、島人年中捕
 獲スル所ノ平均數ハ概シテ二千頭ヲ下ラズト
 云フ

蟪龜 形狀暗綠色ニテ大ナルハ六七尺ニテ平
 均ニ四十五貫餘アリ、普通トシ、最大ナルハ
 九尺ニテ四十貫餘アリ、六月ノ候陸地ニ上
 リ白砂ノ中ニ産卵ス、故ニ本島約アリ、捕
 フルコト一月ニ始リテ五月ニ終ル、蓋産龜ヲ
 揚リ、其繁殖ヲ害スレバ容易ナレドモ、之ヲ捕
 レバ其繁殖ヲ害スレバ容易ナレドモ、之ヲ捕
 船本島ニ製造スル一種ノ舟ニ乗リ、棕梠ノ
 幹ニテ作リ、タスル見テ、徐ニ舟ヲ寄セ、之ヲ
 スルギ、海上數十町ニ放シ、繩端ニ浮標ヲ施
 シ、漁者時々岸上或ハ船中ニ立テ、之ヲ望ミ、雄
 龜來リテ交孳スルヲ偵ヒ、其繩ヲ引キテ直ニ
 雄龜ヲ捕ス、島人皆此肉ヲ賞美シ、羹ニ
 味ナリ、歐人亦此肉ヲ賞美シ、羹ニ
 ニ作リテ上饌ニ供ス、ト云フ

相模國

相模ハ、西北ノ一帯皆山ヲ繞ラシ、東南北漸次ニ
平曠ノ沃野ヲ控ヘ、正南一面海ニ枕ミ、東南部ニ
至リテ、山岡丘阜平野ノ間ニ起伏シ、其海上ニ斗
出スルモノ小形ノ半島地ヲ造リ、安房上總ノ二
州ニ相對シテ自然ニ東京灣ノ門口ヲナス、國ノ
東西凡十四里、南北凡十一里アリテ、之ヲ九郡ニ
分畫ス

三浦、鎌倉、高坐^{カリザ}、大住^{オホミ}、淘綾^{タルギ}、足柄上、足柄下、愛甲^{アイカフ}、津
久井

田圃

戸口

田圃凡五萬五千五百二十餘町^{田一万六千五百二十餘町餘圃三萬九千四百六十餘町餘}
戸數凡七萬八千十、人口凡四十二萬五千百六十餘アリ

地質

風俗

水利

地質ハ西北山間ノ地肥磽相半シ、東西北ノ一帯概ネ膏腴ニテ穀果豐熟ス、風俗ハ都鄙自ラ殊別アリテ、西北山地ノ人ハ大略樸陋ナレドモ、一般ニ溫和ニテ、採薪養蠶ヲ業トシ、兼テ紡織ニカム津久井郡西北部ニテハ甲州ノ郡内地方ト同ク生糸、海氣織ノ類ヲ出スコト最盛ナリ東南都邑ノ人ハ敏捷ニテ稍輕浮ヲ免レズ、然レドモ皆能ク商工耕種ニ勤ム、沿海地方ノ人ハ質樸簡素ニテ、専ラ漁獵ニ從事ス

國中運漕灌溉ノ利ニ富ミ、箱根ノ蘆湖東西凡二十町餘、南北一里二十餘町、周回四里三十町餘ハ山頂ヨリアリテ、深凡四十六仞、透明鏡ノ如シ、東西ニ分流シ、其東流ハ早川トナリ、小田原ノ南ニ至リテ海ニ入り、西流溝渠ハ駿河ニ入りテ亦灌

田ノ用ヲナス、酒勾川ハ駿河ヨリ來リ、足柄上郡
ノ諸水ヲ俟セテ東南流ス、其國中ヲ流ル、僅ニ
五里餘ニ過ギザレドモ西南部平野ノ田園ハ皆
此灌溉ニ賴ラザルハナシ、相模川ハ一二馬入川
トモ云フ、甲斐ヨリ來リテ全長凡三十一里、國ノ
中央ヲ流ル、一大川ニテ、其上流ハ概ネ懸崖幽
谷ノ間ヲ出テ、急湍激流岸高ク水深クシテ、舟筏
ノ上下甚危険ナレドモ漸次東南ニ向ヒテ遂ニ
平曠沃野ノ間ヲ南流シ、周ク沿岸ノ各地ニ灌ギ、
其舟楫ヲ通ズルモノ海口高坐、大住ノ二郡界ヨリ上流凡
十有七里ニ達ス、其他全長十里以下ノ小流甚
多シ、海岸ハ西ニ真鶴崎、東ニ三浦郡ノ半島地

アリ、東西相擁シテ一大海灣ヲナス、此海上ヲ相模灘ト云フ、魚介ノ利_{〔三浦郡ノ鯛、鰯、鰹〕}頗ル盛ナリ

三浦郡ハ東南緊要ノ半島地ニテ、其極南ニ東西ノ二岬角アリ、西ヲ三崎港トス、船舶ノ碇泊ニ便ナリ、其南面ニ横ハル一小島ヲ城ヶ崎ト云フ_{〔民住〕}

ノ戸數八十八、人_{〔六尺、光達十海里〕}燈臺_{〔不動、綠色、高十丈〕}ノ設ケアリ、凡四百二十餘

リ、東ヲ劍崎ト云フ、岬西ヲ江名港トス、亦繫船ニ

宜シ、此岬角ニモ亦燈臺_{〔回轉、白色、高十一丈〕}アリ、

是ヨリ東北ニ遶リテ、千駄ヶ崎、千代ヶ崎等ノ小

浦賀

岬アリテ、其北ニ浦賀港_{〔戸數凡一千五百二十餘、人口凡七千四百餘、アリ〕}

港内水深ク、五匁ヨリ十匁ニ至リ、大艦巨舶ヲ容ル、ニ足ルモ、港頭地狹クシテ加フルニ陸通不

便ナルガ故ニ近時港況
萎微トシテ尚振ハズ

アリ、此地ノ東角ヲ觀音

崎ト云フ、燈臺二個

〔不動白色、高十七丈八尺、光達
十七海里、副燈不動紅色、高十

四丈六尺、光達
七海里〕

ヲ設ケテ東京灣ニ往來スル航客ノ

標トス、極南ノ角ヨリ此岬頭ニ至ル海岸近接ノ

海上ニハ、島嶼崑礁頗ル多クシテ、風濤ノ際舟行

甚危險ナリ

小田原

本國ノ都邑ハ小田原ヲ第一トシテ、横須賀之ニ

次グ、小田原ハ

〔大久保氏七万五千石ノ旧城、地ニ
テ、東京ヲ距ル凡二十里、京都ニ

凡百十
里餘〕

足柄下郡ノ海濱ニ沿ヒ、國道ノ衝ニ當

リテ、戸數凡二千八百九十餘、人口凡一萬四千

餘アリ、市街繁盛ニテ、地方ノ商賣ハ稍活潑ナ

レドモ、製産ノ事業ハ尚未著キモノヲ見ズ、横

横須賀

須賀ハ

〔東京ヲ距ル凡十六里
餘、横濱ニ凡七里半強〕

三浦郡ノ東北海頭

ニ在リ、海軍鎮守府ノ所在地ニテ港頭ノ繁華近
年日ニ加ハリ、今ハ東洋中第一ノ軍港ヲ以テ稱
セラル、戸數凡二千八百餘、人口凡一萬三千三百
餘アリ、特ニ造船場ノ盛大ナルハ、歐米人ノ臨觀
スル者皆以テ稱賛セザルハナシト云フ、其他ハ
大磯、藤澤、鎌倉等ノ諸邑アルモ、其戸數皆一千戸
ニ足ラザル、小市街ニ過ギズ、然レドモ其中、鎌倉ハ、
昔源氏政府ノ在リシ所ニテ、歷史上有名ノ舊蹟
地ナレバ、鶴岡神社今尚其名高ク、光明寺、建長寺
圓覺寺等ノ古刹尚依然トシテ各所ニ現存セ
リ

予曩ニ鎌倉ノ地勢ヲ探グルニ、此地ハ鎌倉郡ノ南隅ニ在リテ南三浦郡ニ接シ、西南海岸ニ且リ、岡巒四境ニ起伏シテ平行ノ地甚少、源氏霸府ノ舊蹟狹隘ナル溪谷ノ低地ニ在リ、當時武族ノ邸第碁布散在シテ其形蹟尚往々ニ存スルモノアリ、山内、二階堂、扇谷等ノ名稱ニ接シテ、中古ノ現象目前ニ浮ブガ如ク、頗ニ懷舊ノ情ヲ催スニ至レリ

是ヨリ稍西南ノ海岸ヲ七里ケ濱ト稱ス、江島〔人〕百五十四戸、人口凡〔家〕八百九十餘アリノ勝景ハ専ラ文人遊客ノ縱遊スル所ナリ

武藏國

武藏ハ西方ノ一隅

〔信濃、甲斐、相模ノ國界〕

山岳重疊シテ、其

支脈漸次ニ國中ニ蟠崛シテ、西部ノ一斑ハ大略
平行ノ廣地ナク、是ヨリ東スルニ隨ヒテ、地勢漸
ク低平シ、南ハ相模ニ連リ、北ハ上野、下野ニ接シ、
東ハ東京灣ニ沿ヒテ下總ニ亘リ、平濶數十里復
一小山ヲ見ズ、人烟四境ニ肆キ、昔武藏野ノ原多南
摩川ノ畔ヨリ、北荒川ノ岸ニ至ルニ、
望十餘里ノ間之ヲ武藏野ト稱ス、ト稱セシモ
ノ今ハ已ニ一帯ノ田圃トナリ、無數ノ村落其間
ニ點綴シテ至ル所穀果豐熟セザルノ地ナシ、全
土ノ東西凡二十六里、南北凡二十五里、之ヲ二市
二十九郡ニ分畫ス

區畫

東京更ニ十五區ニ分ツ、麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四ッ谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川ト云フ横濱以上市、以下郡南豐島、北豐島、南葛飾、北

葛飾、南足立、北足立、南埼玉、北埼玉、新座、荏原、入間、高麗、比企、横見、大里、男衾、幡羅、榛澤、兒玉、賀美、那賀、秩父、東多摩、西多摩、南多摩、北多摩、橘樹、都筑、久良岐

田圃

戸口

風俗

農産

田圃凡二十三萬六千五百三十一町餘田八萬九千八百九十町八反餘、圃十四萬六千六百四十町六反餘、戸數凡六十一萬九千八百七十餘、人口凡二百九十五萬六千三百三十餘アリ、風俗ハ村落一般ニ東京ノ風俗ハ、前編ニ詳ナリ、溫和ニシテ簡素都邑ノ人ハ概テ華美ヲ好ムノ傾キアリ、ヲ常トシ、皆能ク農商工織ニ勉ム

本國ハ關東第一ノ農産國ニテ、地味膏腴、五穀百果ニ適シ、米、麥、綿、藍、及大豆、小豆ノ産、八州關東ニ其

東京市街之圖





東京

比ヲ見ズ、其他養蠶紡織ノ盛ナルハ、信濃、上野ニ
亞ギテ甲斐ニ凌駕シ、製茶ヲ出スノ多キモ亦近
國ニ冠タリ

〔前編ノ農産、織物
表ノ參見ヲ要ス〕

東京ハ、昔江戸ト稱シテ近世ノ初、徳川氏ノ開市
ニ係リ、尋デ幕政ヲ執ルノ府トナリ、全國大小二百
六十餘ノ列藩各邸第ヲ興シテ、府城ノ内外ニ星羅
シ、日本橋ヲ中央トシテ、市街縱横ニ通シ、東西凡三
里餘、南北凡四里ニ亘リ、遂ニ本邦第一ノ大都會
ヲナシ、爾後二百七十餘年ヲ經テ、明治元年改テ
東京トシ、今上天皇遷都以來市井ノ狀勢日ニ月
ニ其繁華ヲ増加シ、昔瓦屋ノ邸第ハ今變ジテ練
瓦層樓ノ官衙トナリ、大通リノ辻店ハ已ニ其形

歐米都會人口比較

府史

跡ヲ斷チテ馬車鐵道ノ大路トナリ、全市十五區、

町數凡一千三百七十二、戸數凡二十八萬八千七

百八十餘、人口凡百十六萬五千五十餘アリ、歐米

諸州ノ大都會英國倫敦人口凡四百十四萬九千

四萬四千五百餘、獨國伯林人口凡四百三十一萬五

千四百餘、北米紐約人口凡百二十萬六千三百餘、

澳國維也納人口凡百三萬九千八百餘、露國聖彼得堡人口凡九十二萬九千八百餘、

稱シ、東洋中ニテハ支那ノ北京人口凡二百五十萬

亞ギタル一大都會ナリ

史上ニ按ズルニ幕政繁華ノ頃ハ全國ノ士民

本府ニ輻輳シテ人口ノ多キコト殆ド今日ニ

倍スルノ有様ナリシモ、幕府ノ官第及諸藩ノ邸第ヲ除ク外、市民ノ家屋其大半ハ總テ大

小錯雜シ、市街ハ縱橫交叉シテ復規律ヲ見ズ、地勢高低ノ撰ビナク、隨テ關キ隨テ町ヲ成シ、其區域次第ニ擴張シテ、市廛ノ櫛比スル所殆

ド方四里餘ト稱シ、南ハ品川驛ニ連リ、北ハ荒

川下ニ至リテ千住驛ニ接シ、東ハ隅田川ヲテ、
西ハ新宿ニ及ブ迄、戸々々々相接シ、
丸ノ山ニ多ク家密ニシテ、
悉ク燼ニシテ、焚死ノ狂風、
所ニ島埋メ、寺ヲ建テ、
貞享中、隅田川東一帯、
ヲ武藏ニ屬シ、深ノ川、
ニ隸ス、其後、八代將軍、
市中、草葺ノ家屋ハ、
テ防火ノ用、粗備ハ、
テ安永元、年ノ二月、
ニ火又シ、十五年、
人ノ後、又三、十五年、
町ニ火ヲ失シ、
四十區、市戸百、
四十區、市戸百、
漢ノ一、
實ニ未曾有、
シテ、
九百四十、
九百四十、

六、百餘人、尋、棟、橋、梁、ヲ、燒、ク、コ、ト、五、十、焚、死、一、千、
 九、百、餘、人、尋、棟、橋、梁、ヲ、燒、ク、コ、ト、五、十、焚、死、一、千、
 焚、傷、凡、十、萬、四、千、餘、人、ニ、至、ル、之、ニ、加、リ、
 災、シ、ト、ス、以、上、ノ、災、害、毎、ニ、市、況、漸、次、ニ、府、下、變、災、
 尋、名、區、等、悉、ク、破、壞、シ、市、街、清、潔、ニ、テ、家、屋、復、一、大、變、
 華、ノ、都、會、ト、ナ、リ、東、海、道、以、テ、起、ル、橋、本、音、寺、
 線、シ、東、北、馬、車、鐵、道、ハ、上、野、ヲ、新、橋、京、橋、日、本、橋、
 通、リ、二、萬、二、千、二、百、二、十、二、里、ノ、間、ニ、至、リ、
 經、テ、前、ニ、至、リ、淺、草、橋、ト、云、フ、通、リ、
 門、前、ニ、至、リ、淺、草、橋、ト、云、フ、通、リ、
 二、千、二、百、二、十、二、里、ノ、間、ニ、至、リ、
 氣、ヲ、以、テ、日、夜、相、往、復、ス、要、ス、頭、立、車、九、十、
 夜、モ、猶、フ、點、シ、テ、縦、横、ノ、市、中、ニ、瓦、斯、燈、ハ、照、シ、
 本、橋、ノ、大、通、リ、ヲ、以、テ、其、最、旺、盛、ノ、要、ス、頭、立、車、九、十、
 頭、ノ、所、在、地、ヲ、概、テ、官、省、其、四、周、ヲ、繞、リ、皇、族、貴、
 ハ、專、ラ、第、一、區、中、ニ、集、散、シ、赤、坂、諸、學、校、
 ハ、赤、坂、離、宮、野、ノ、芝、區、中、ニ、集、散、シ、赤、坂、諸、學、校、
 觀、勝、地、ハ、離、宮、野、ノ、芝、區、中、ニ、集、散、シ、赤、坂、諸、學、校、
 觀、勝、地、ハ、離、宮、野、ノ、芝、區、中、ニ、集、散、シ、赤、坂、諸、學、校、

横濱市

草、深川、及芝ノ諸公園アリ、陽春ノ櫻花ハ向島ノ堤上ヲ佳トシ、盛夏ノ納涼ニハ兩國橋ノ夜景アリ、其他月ニ雪ニ縦遊佳ナラザルノ地ナシ、而シテ人事ノ勿忙亦極リナク、商賣ノ活潑ニシテ人氣ノ勇壯ナルハ、未曾テ他ノ府縣ニ其比ヲ見ズ

東京ヨリ南沿海八里半強ニ横濱市アリ、此地ハ本^{ホシ}牧^{モウ}岬ノ北面ナル海灣ノ南岸ニ在リテ、南ハ本牧ノ小山脈ニ接シ、西ニハ一帯ノ高阜ヲ控ヘテ地勢北方ニ漸開シ、神奈川驛ト相距ルコト僅ニ一里五町、安政六年^正始テ開港シテヨリ茲ニ三十一^年、市況日ニ繁盛シ、現時ノ戸數凡ニ萬六千百五十餘、人口凡十一萬五千餘、歐米諸外國人ノ來リ住スル者戸數九百八十三、人口凡三千九百餘

^此中英^國人中支那人戸數五百、人口凡二千五百七十餘、英國人戸數二百五十七、人口六百二十餘、米國

人戸數六十九、凡二、餘、獨逸國、人戸數五十七、人口凡百七十餘、佛國人戸數五十、人口凡百十餘、其他ハ和蘭、瑞西、以太利、露西亞等ノ諸外國人トス、此統計ハ明治十九年十二月現在數ナリアリ、本邦五開港中第一ノ要港ニテ、内外貿易ノ盛ナルハ、攝州神戶港ト東西相競ヒテ互ニ兄弟タリ

國中ノ都邑ハ、東京、横濱ノ外ニモ甲州街道ニハ

王子驛

東京ヲ距ル凡十二里半強、戸數四千二百六十餘、人口凡一万七千三百五十餘ア

リ、此地ハ南多摩郡ニ在リテ、近傍諸郡村ヨリ輻

輳スルノ一商區ニテ、市街繁華生絲織物ヲ出ス

コト極テ多シ、其他川越ノ

松平氏八万、四百石餘ノ旧城地ニテ、戸數二

千六百十六、人口凡一万五千八百

入間郡ニ於ル

大宮郷ノ

戸數八百二十九、人口凡四千五百四十餘アリ、東京ヲ距ル川越通リ凡二十四

製産物

里半強

秩父郡ニ於ル、皆僻邑中ノ小都會ヲ以テ名アリ、此地方ニテハ、養蠶紡織ノ業盛ニシテ所謂ル秩父絹、生絹、太織縞、白太織、及綿織類ノ産出最有名ナリ

本國ハ人口繁多ノ土地ニテ、海岸ニハ東京ノ大都竝ニ横濱ノ市場アリ、物貨ノ需用愈出デ、愈限リナク、廢鼓ノ皮、寸餘ノ塵モ皆價ヲ得ザルハナシ、秩父、比企、高麗、入間、及南西多摩諸郡ノ木竹ハ其産擧テ少シトセズ、而シテ以テ東京一部ノ需用ニ充ツルニ足ラズ、伊豆、安房、上總ノ薪炭以テ一般ニ充タス能ハズ、諸般ノ供給關東ニ不足ニシテ關西、及東北ノ各地ニ仰グモノ數ナカラ

産物

ズ、國中ノ産物ニテハ已ニ上ニ載スル所ノ外、荏原、橘樹二郡地、海灣ノ海苔、及鶴見村近傍各地ノ梨、久良岐荏原諸郡ノ梅、埼玉郡ノ桃、葱、其他駒込ノ茄子、早稲^{ヒタ}田ノ藁荷^{ヤナギ}、谷中ノ生薑、竝ニ東京市中ノ錦繪等皆地方ニ賞愛スル所ノ名産ナリ

水利

更ニ全國ノ水利ヲ舉クレバ、北ニ利根川^{本流ノ狀況ハ}
^{下総ニ}ノ巨流アリ、其源上野ヨリ來リテ國ノ北
^{詳ニス}境ヲ遶リ、其支流周ク北方ノ諸郡ニ灌ク、其大ナルヲ中川ト云フ、^{上ヲ古利根川ト稱ス}全長凡二十里半
強、南葛飾郡ヲ貫キテ海ニ入ル、中央部ニハ荒川
ノ長流アリ、秩父郡ノ西南山溪ニ發源シ、初メ東北ニ流レ、熊谷驛ノ南ヲ過ギテ斜ニ東南ニ曲流

荒川

多摩川

府下ノ飲料水

シ、國中ノ諸水ヲ合テ榮田屈折シ、足立郡ト北豊島郡トノ界ヲ遶リテ東京ニ入ル、即隅田川ト稱スル是ナリ、水源ヨリ海口ニ至リ全長凡四十七里餘凡舟楫ヲ通ズルコト府下ニ入リテ五大橋ヲ架ス、永代橋長百四間新大橋長百八間、巾三間三尺兩國橋長九十間、巾六間厩橋長八十六間、巾三間二尺吾妻橋長八十一間、巾六間三尺ト云フ、又府外千住驛ニ架シタル大橋ト云フ、長十六間之ヲ國中ノ一大川トス、是ヨリ南部ニアル一川ヲ多摩川トモ書スト云フ、甲斐ヨリ來リ、東流シテ海ニ注グ、下流ヲ六郷川ト稱ス、全長凡三十八里ト舟楫ヲ通ズルコト水質善良ニテ頗ル清冷ナリ、東京市中日本橋以南皆此水ヲ引キテ多西

摩郡下師岡村ノ東南ヨリ溝渠ヲ通ジ、新宿驛ノ南ヲ經テ府下ニ入ル所謂ル玉川上水ト稱スル

是ナ市街ノ縱横ニ水道ヲ通ジ、以テ日常ノ飲料

トス、日本橋以北ハ北多摩郡ノ井頭池ノ水ヲ引キテ飲用ニ供ス、所謂ル神田上水ト稱スル

是ナ海灣ハ諸川ヨリ流出スル土砂ヲ受ケ、下ニ

品川海上ノ砲臺六所ニ在リアルガ為ニ水底年次ニ

埋塞シ、砲臺以北特ニ淺ク、大艦巨舶府下ニ達ス

ルヲ得ズ、唯小漁船其他ノ帆船等皆潮水ニ隨ヒ

テ僅ニ往來スルヲ得ルノミ

安房國

安房ハ南洋中ニ突出シ、上總ト共ニ關東極南ノ

半島地ヲナシテ、東西凡十里、南北凡七里許リノ

地勢

小國ニテ、地勢北方ノ一帶ニ山ヲ遶ラシ、東南西

ノ三方皆海ニ面シテ、其東方ハ海岸險惡、岩石潮

市邑

ヲ嚙ミ、海上ハ風濤常ニ暴クシテ、航船危險ヲ戒
ムルノ所ト云フ、南西ニ周グルニ隨ヒ、或ハ砂岸
ノ遠ク相連ル地アリ、或ハ地水參差シテ岬灣ノ
頻ニ相出入スルヲ見ルアリ、極南ノ地ヲ白濱ト
云ヒ、其南岬ヲ野島岬ト云フ、岬頭ニ燈臺不動白
色高十
三丈三尺、光達
十七海里半ヲ設ク、是ヨリ西ニ出ルコト凡五
里許ニテ、伊豆半島地ト遙ニ相對スルノ角ヲ洲、
崎ト云フ、此北灣ヲ館山灣ト名ク、即館山里見氏
ノ旧蹟
ニテ近クハ稻葉氏一
万石ノ旧城ノ在ル所ニテ、
北二十五町餘ヲ隔テ、北條ト云フ處アリ、共ニ
此地方ノ小都邑ナリ、灣ノ北角ヲ大武岬ト云フ、
是ヨリ北部ノ西海岸ニ加知山本勝山ト書ス、酒
井氏一万二千石

地ノ旧城

ト稱スル一小市アリ、此地ヲ距ル二里許

ニシテ上總ノ國境ニ入ル、此全土ヲ四郡ニ分畫ス

平郡、安房、長狹、朝夷

田圃

田圃一萬四千十二町餘

田八千二百三十五町八反、圃五千七百七十六町

戸口

餘戸數凡二萬八千二百十餘、人口凡十六萬五千

風俗

八百六十餘アリ、風俗ハ概ネ簡素ニシテ頑陋ナ

ルガ如シ、然レドモ一般ニ能ク農漁ニ勉勵ス、地

地質

質ハ肥瘠相半スト雖、氣候溫暖ナルガ為ニ草木

善ク發生シ、村落概ネ牧牛ニ從事ス、故ニ關東第

牧牛

一ノ小國ニシテ、農家牧養スル所ノ牛數ハ現今

凡八千五百餘頭

明治十九年農商務省ノ調査ニ拠ル

アリ、八州中

海產

他ノ七州ノ牛數ヲ合テ始テ相對當スルノ有様
ナリ、然レドモ此國モ亦伊豆ト同ク、其産内國種
ヲ多シトシ、雜種之ニ次ギテ、形體ハ概ネ短小ナ
レドモ性質ハ頗ル剛猛ニテ、荒地山田ノ耕耘ニ
驅使スルニ適スト云フ、沿海ノ人民ハ專ラ漁業
ニ力メ、鰹 乾鰹ヲ主トス、明治二十一年千葉縣廳
ノ調査ニ拠ルニ其高四十万三千二百
八十九貫、鯖、鰹、鮓、鰯 塩鯖八万九千六百七十餘貫、塩
鰹五万三千九百三十貫、乾鰯一
万六千九百九十、及海草ノ收獲極テ多クシテ、廣
ク他邦ニ販賣ス、

上總ノ國境ニ鋸山ト云フ高峰アリテ、其山脈東ニ亘リテ横根、花立、清澄等ノ諸嶺トナル、其中清澄山ハ此地方有名ノ山林ニテ、杉、松、雜樹立茂リ

テ多ク良材ヲ出ス、山麓ノ村民戸障子ヲ製シテ
生業トスル者多シ、是ヨリ上總ノ望陀、周准ノ諸
郡ニ聯ナル一帯ノ山中ニハ盛ニ薪炭ヲ出シテ
專ラ東京地方ニ輸出ス

上總國

地勢

上總ハ下總ノ南ニ連リ安房ト相接シテ西ニ東
京灣ヲ抱キ、東ハ大洋ニ瀕シテ一ノ半島地ヲ形
造リ、地勢南方ニ山ヲ負ヒ、東北西ニ漸低シテ一
帯ノ曠野ヲ控ヘ、方大略十四里之ヲ分畫シテ九
郡トス

區畫

田圃

戸口

天羽^{アヲ}、周^ス准^ス、望^{マウ}陀^ダ、市原^イ、夷隅^{スミ}、埴^ハ生^ダ、長柄^{ナガテ}、山邊^{ヤマノヘ}、武射^{ムセ}
田圃凡七萬三千四百三十四町餘^{田四萬五千二百九十七町九}
反餘^{反餘}、圃二萬八千百^{反餘}、戸數八萬三千八百五十餘、人

風俗及
生業

地質

物産

口凡四十六萬九千六百六十餘アリ、風俗ハ概ネ
樸陋ニシテ相移ラズ、中央以北ノ人ハ專ラ耕作
ヲ主トシテ旁ラ商工ニ從事シ、南部山間ノ者ハ
農樵兼ネ務メ、東西沿海ノ民ハ漁獵ヲ以テ生業
トスル者多シ、地質ハ、南部ノ地方肥磽相半シ、中
央以北ハ概ネ埴土ナレドモ、或ハ砂土卑濕ノ壤
アリ

農産ハ、米、麥ヲ以テ第一トシテ、家禽〔山邊、武射ノ二郡地ニ專

ラ飼雞ノ業行ハレテ毎年産卵ノ總計大略一億餘万個ヲ出スト云フ之ニ次ギ其

他ハ煎茶、烟草ヲ出シ、水産ニハ乾鰻〔明治二十一年ノ出高凡

百二十万三千〔七万二千百六十餘貫〔八百餘貫〔ヲ以テ其冠タルモ

ノトシ、乾鮑、鹽鰻、搾滓之ニ次ギ、其他多ク海藻〔海苔

石花菜、鹿尾菜、鹿角菜、和布ノ類

ヲ産ス、山ニハ薪炭、及石材〔天羽郡ヨ〕

ス〔出〕ヲ出スコト極テ多シ

都邑ノ名アルモノ山邊郡ノ東金〔東京ヲ距ル〕市

都邑

原郡ノ八幡〔東京ニ凡餘〕鶴舞〔東京ニ凡餘〕井上〔東京ニ凡餘〕氏〔東京ニ凡餘〕六万石ノ旧城

地ナ望陀郡ノ木更津〔東京ニ凡餘〕周准郡ノ飯野

東京ニ凡二十四里半強〔東京ニ凡餘〕夷隅郡ノ勝浦〔東京ニ凡餘〕加納

保科氏ニ万石ノ旧城〔東京ニ凡餘〕長柄郡ノ一ノ宮〔東京ニ凡餘〕氏〔東京ニ凡餘〕一万三千石ノ旧城〔東京ニ凡餘〕地

等各其地方ノ一商區ニテ市況稍繁華ナレドモ

皆戸數一千ニ足ラザル小市邑ノミ

國ノ東海岸ニテ一角遠ク洋中ニ突出シタルヲ

大東崎〔上ニ虎視崎ト云フ、其海ト云フ、亂礁起伏〕

シ、潮水常ニ風ニ激シテ白浪岸ニ翻リ、遠望スレ

九十九里ノ濱

バ白雲ノ片々紊レテ岸ヲ遶ルノ觀アリ、此海上
ハ行舟ノ常ニ戒嚴スル所ト云フ、是ヨリ南ニ巡
リテ八幡崎及川津ノ岬等アリ、勝浦港南ニ面シ
テ僅ニ繫舟ニ便ナリ、大東崎ヨリ北ハ一帯ノ砂
濱遠ク下總ニ連リテ復一ノ岬角ヲ見ズ、此間凡
二十餘里、所謂ル九十九里ノ濱是ナリ、此沿海ノ
村民ハ概ネ漁獵ヲ以テ生業トシ、毎年八月ヨリ
十月ニ至ルノ期節ハ鰯ヲ漁スルコト極テ夥シ
ク、其大獲ニ當リテハ、實ニ一獲千金ノ贏利ヲ
收ムルアリ、故ヲ以テ此地方漁家一年ノ生計ハ
皆此一期ヲ以テ定ムルノ例ト云フ

前編水産ノ部ヲ參見ス

要ルヲ
ス

富津洲

東京灣

西海岸ハ、東海岸ニ比スレバ内海常ニ甚穩ナリ、
 水更津港其要衝ノ地ニ在ルヲ以テ、國中ノ物産
 東京ニ輸出スルモノ大略茲ニ據ラザルハナシ、
 東京ニハ毎日汽船ノ往復アリ、然レドモ港内水
 浅クシテ潮退ケバ船舶皆出入スルヲ得ザルノ
 憂アリ、此地ノ迤南ニ一角西ニ向テ突出スルヲ富
 津洲ト云フ、相模ノ观音崎ト東西斜ニ相對シテ、
 東京灣ノ門口ヲ扼セリ、近時此洲中ニ砲臺ヲ設
 ケテ、观音崎砲臺ト互ニ相應援シテ以テ異事ノ
 防備ニ充ツ、水更津ヨリ北方五井ノ濱ニ至ルマ
 デ、沿海岸ハ總テ漁業ノ盛地トス、此内海ハ下總
 武藏ヲ周リテ、東西凡三四里、乃至七八里ノ間ニ
 出入シ、南北凡二十里ニ亘レル一大灣ニテ、深キ

下總國

所三仞餘、淺キハ僅ニ四五尺許、東北ニ至ルニ隨
テ漸次ニ淺ク、潮退クトキハ、砂泥ノ洲ヲ露スコ
ト凡一里餘ニ至ルノ所アリ、鰻、蛤、牡蠣、及海苔ノ
類ヲ産スルコト頗ル多シトス、特ニ鰻ハ此灣ニ
産スルモノ味甚美ニシテ、東京市人ノ最賞味ス
ル所ノ優物ナリ

下總ハ本邦中ニテ一小山ヲ見ザル一帯低平ノ
國ニテ、武藏、上野、下野、常陸、上總ノ五國ニ挾マレ、
正面東京灣ニ瀕シ、東ノ一面大洋ニ枕ミ、利根川
ノ巨浸國中ヲ貫キ、許多ノ沼澤其近傍南北ノ地
ニ連綴シ、高原丘阜各所ニ起伏シテ地勢高低一
ナラズ、全土ノ東西凡二十二里、南北凡十七里餘、

區畫

之ヲ十五郡ニ分畫ス

千葉、東葛飾、西葛飾、中葛飾、猿島、結城、豐田、岡田、南相馬、北相馬、印旛、下埴生、香取、匝瑳、海上

田圃

田圃十三萬百七十八町餘田六万九千七百五十
六町餘、圃六万四百二

戸口

十二町餘戸數十三萬六千七百餘、人口凡七十六萬一

風俗

千九百九十餘アリ、風俗ハ概ネ上總ニ相類似シ

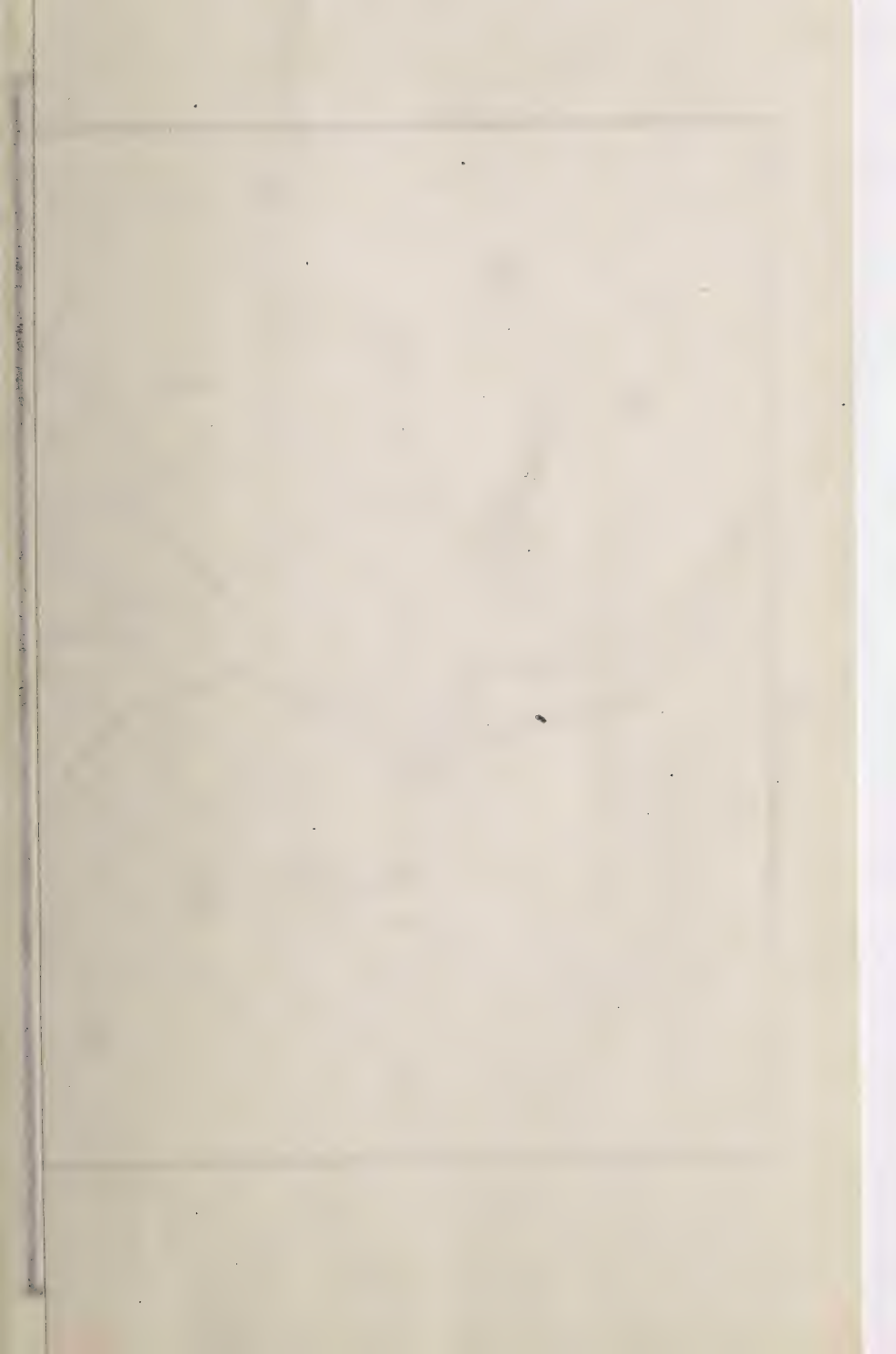
地質

テ稍輕浮ヲ免レズ、然レドモ一般ニ能ク耕種、紡織、及製造ノ事業ニ勤メ、東方沿海ノ人ハ專ラ漁獵ニ從事ス、地質ハ概ネ赤墳土ニシテ膏腴ニ乏

キガ如キモ、岩石少クシテ穀果ニ宜シ、東方沿海ノ地ハ砂土多ク、利根川沿岸ノ低地ニハ卑濕斥鹵ノ所少カラズ

利根川海口形状





利根川

利根川ハ上州利根郡ノ北部山溪ニ發シテ、其國中ノ諸水ヲ合セ、南流シテ武藏ノ北境ヲ遶リ、漸ク東南流シテ國ノ西北部ヲ貫キ常陸ノ界ヲ限リ、縈回東下シテ海ニ入ル、其海口ヲ銚子口ト云フ、水源ヨリ茲ニ至リテ全長凡七十三里餘、所謂ル關東ノ平野ヲ流レ、川幅濶ク各地同一ナラザレドモ南北相馬郡中水戸街道ノ渡リ場近傍ハ凡三町餘、是ヨリ下流ノ地ニテ濶キハ凡四五町乃至六七町ノ間ニ出入シ、或ハ殆ド一里許ニ達スルノ所アリ水流緩ニシテ、屈折迂回極テ多キガ為ニ、沿岸ノ國郡皆其灌漑ノ利ヲ受ケザルハナシ、特ニ舟筏ヲ通ズルコト凡七十一里強、此間ニ上利根、中利根、下利根ノ稱アリニ達シ、國中ニ入リテ分派ノ大ナルモノヲ江戸川ト云フ、關宿ノ南ヨリ

南折シテ正南ニ直流シ、武藏ノ州界ヲ經テ東京

灣ニ注グ、長凡十八里弱

〔舟楫全通〕

利根川ノ本流ハ本邦十四大河

〔石狩、信濃、北上、天龍、木曾、最上、阿武〕

隈、阿賀野、富士、大井、紀ノ、吉野、筑後、及利根中最著名ノ一大川ニテ、一

ニ坂東太郎ノ稱アリ、銚子港ヨリ小湊船、及日本

形帆船ノ上流各地ニ往復スルモノ、日夜織ルガ

如シ、原野ヨリ遠望スレバ白旗ヲ翻シタル大兵

整然トシテ平野ヲ進行スルモノ、如シ、以テ其

運漕ノ盛ナルヲ知ルベシ

按ズルニ大河ノ末流ニハ概ネ三稜洲ヲナス

モノ自然ノ理勢〔水潮反激ノ餘勢〕ニテ本邦ノ

大河中ニモ大略此形勢ヲ見ザルハナシ、然ル

ニ此利根川ノ巨流ハ全ク他ノ諸川ト其形狀

ヲ異ニシ、七十餘里ノ長流中、其大半ハ總テ平

衍ナル曠野ノ間ヲ緩流シ、其曲折迂回ノ所ニ

ハ各所ニ泥土渣滓ノ中洲ヲ造ルモ少カラズ、特ニ霞浦北浦等ノ諸水相合流スルノ至リテハ、其水勢ノ激スル所遂ニ大小無数ノ島嶼所謂ル沖積層地ヲ造リテ是ヨリ凡三四里ヲ下ル間ハ復一小洲ヲ見ズ、常鹿島郡ノ鈍子港其南岸ニ在リテ、千人塚ノ屹岬ト云フ、此鈍子口ニテ其間凡二十餘町、其口稍迫リテ直ノ海ニ接シ、波瀾河水ト相激シテ岸石ニ觸ル、鈍子口ノ翻リテ白波ノ遊リ出ルガ如シ、所謂岬角ヲ繞ル沿海ニハ、無数ノ岩礁、潮汐ニ因テ隠頭出沒シ、舟行ノ危険云々、可カラズ、想フニ鹿島郡ノ南角一帯ノ危険、沖積層地ハ、即此本流ノ水勢ト東面海潮ノ激サレタルニ因リテ、古來自然ニ本川流形ヲ造リ出ダサレタルニ外ナラズ、宜

本流ノ水産ハ鮭ヲ以テ冠トシ、鯉鮒之二次ギ、其

他ノ魚類亦甚多シ、又此本流ノ南北ニ點在セル

數多ノ沼澤ハ、皆天然ノ地形ニ據リテ自然ニ瀦
水シタルモノニテ、其稍大ナルヲ印幡沼ト云ス
印幡郡ノ中央ヨリ其北部ニ屈曲シテ、周回十二
里、東西凡二里、南北七里アリ、沼中舟楫ノ便アリ
テ魚鰕亦多ク之ニ産ス、其他ノ小沼ハ悉ク之ヲ
記スニ足ラズ

此國利根川以南ノ地ハ專ラ米麥ヲ出シ、沿海ノ
地ハ魚鹽ノ利少カラズ〔鹽〕九萬六千七百二十
九十餘貫、〔鰕〕六萬三千三百十餘貫、〔乾鰕〕六萬三千二百
萬三千五百六十餘貫、食鹽二萬五千八百四十餘
石ヲ産セリ○明治二〔又〕清酒〔佐〕味醂〔流〕醬油〔山〕野ノ
十一年ノ年計ナリ

佳釀ハ特ニ關東ニ名聲アリ、以北ノ六郡〔結〕城、岡
田、豐田、岡

西葛飾、狹〔嶺〕ハ多ク綿、茶〔煎〕茶〔番〕藍ヲ産シ、又主トシテ
島、北相馬

都邑

織物ヲ出ス、結城紬、結城緋等最有名ナリ、而シテ

此南北ノ諸郡中ニハ平原曠野ノ地頗ル多ク、特

ニ千葉郡ノ習志野（旧正治六年近衛兵ヲ闕シ、今上天皇親臨ア）

リテ爾後今東葛飾郡ノ小金原、印旛郡ノ小間子（口マ）

野原等ハ皆古來著名ノ曠原ニシテ或ハ陸軍操

練ノ地ニ存スベキアリ（習志野）或ハ牛馬放牧ノ野

ニ宜キアリ（小間子野原）或ハ漸次開墾ニ屬シテ已ニ

其一斑耕種ノ園圃トナリタルアリ（小金原）始テ此

地ヲ過グル者唯其未耕ノ地多クシテ、執耨ノ人

少キノ憾ミ起ラザルハナキノミ

國中ニテ當時繁華ノ都邑ハ千葉郡ノ千葉町（戸數）

三千九百四十八、人口凡一万九千八百八十餘（縣）、船

應ノ所在地ニテ、東京ヲ距ル凡十一里半強

橋

戸

數二千四十餘、人口凡一万

海上郡、銚子數戸

四千七百餘、人口凡二万五千二百九十餘、東京ニ

至ル八日市通リ東金、千葉ヲ經テ二十八里強、佐

原通リ佐倉、大和田ヲトス、而シテ千葉、船橋ノ二

經テ凡三十五里弱

邑ハ共ニ東京灣ノ北岸ニ沿ヒテ、海陸運漕ノ利

ニ富ミ隨テ地方ノ商賣旺盛ナリ、銚子港ハ遠ク

東北ノ極ニ在ルモ、利根川水運ノ便ヲ占メ、從來

有名ノ漁鰻地ニテ鹿島浦、及九十九里濱等ニ漁

スル所ノ鰻モ亦皆此地ニ輻輳シテ、轉ジテ他邦

ニ輸出スルヲ例トス、故ヲ以テ毎年漁鰻ノ期節

ハ港頭ノ市況極テ殷賑ナリ、近傍ノ各地ヨリ多ク綿織ヲ出スモ亦

皆此地ニ拠テ販賣ス、所謂其他ハ印幡郡ノ佐倉

ル銚子縮ト稱スル是ナリ

堀田氏十一万石ノ旧城地ニテ、今東京鎮臺

ノ分營アリ、東京ニ大和田通凡十二里弱

香取

香取

常陸國

地勢

郡ノ佐原東京ニ凡十三里強西葛飾郡ノ古河土井氏八万石ノ旧

城地ニテ東京ニ鉄道線凡三十八哩弱結城郡ノ結城水野氏一万七千石ノ旧城地

ニテ東京ニ流山通リ松戸等各其地方ニ有名ナ

新宿ヲ經テ凡二十一里強

レドモ、皆人口一萬ニ足ラザル小市邑ノミ

常陸ハ、本道東北ノ極端ニ在ル一大國ニテ、東西

凡十一里半、南北三十餘里、之ヲ十二郡ニ分畫ス

筑波河内信太新治行方鹿島真壁東茨城西茨

城那珂久慈多賀

地勢西北隅ニハ溝山阿武隈山脈ノ南ニ亘ルモ

尺高ク聳エ、其山脈蜿蜒トシテ國中ノ北部ニ綿

亘シ、其南ニ奔ルモノ下野ノ國境ヲ遶リテ、那珂

川ヲ南ニ踰エ起伏斷續シテ中央部ノ諸郡ニ亘

日本地理

支那

支那

支那

支那

支那

田圃 戸口 風俗

ル其稍高キモノヲ筑波高二千八百九十七尺、杉、
双峰對峙ス、西ヲ男体ト云ヒ、東ヲ加波、高二千五
女体ト云フ、此地方ノ名山ナリ、
一ニ蒲山ノ二山トス、此山脈ヲ限リテ東南一帯
ニ作ル、
ハ悉ク平曠ノ沃野相連リテ、東ハ太平洋ニ面シ、
西南ハ總テ下總ノ平野ニ接ス、此間高原丘阜各
地ニ交叉シ、川流沼渚亦頗ル多シト雖、土壤ノ廣
濶ナルハ武藏ニ亞ギタル關東第二ノ農國ニテ、
田圃ノ總數凡十三萬九千三百八十餘町、田六万
百四十四町四反餘、圃七戸數十三萬五千百七十
万八百四十町六反餘
餘、人口凡七十五萬二千四百餘アリ、風俗ハ都鄙
ヲ以テ稍其趣ヲ異ニシ、中央都邑ノ人ハ大略樸
訥勇悍ニシテ、郷黨親愛ノ情ニ乏シキガ如ク、山

地質

地海邊村落ノ人ハ稍淳朴ナルニ似タリ、然レド
モ一般ヲ概スレバ皆能ク農商工業ニ勉勵ス、地
質ハ各地同一ナラズト雖モ、大略肥瘠相中分シ
テ、頗ル膏腴ヲ以テ稱スベキニアラザレドモ亦
甚キ礫确ノ地ナシ、今國中ノ狀況ヲ擧グレバ、新
治、那珂、及東茨城ノ三郡ハ夙ニ農産ノ良土ニシ
テ、多賀、久慈、西茨城、真壁、筑波ノ諸郡ハ専ラ製造
工業〔各部ニ皆之ヲ出ス〕ノ地トス、特ニ多賀ハ
漁業製鹽ノ利ヲ兼ネ、隣郡久慈ト共ニ礦物〔大理石〕
斑石、紅葉斑石、霜降斑石、鼈甲斑石ノ類、
石ノ類、石炭、燧石ノ類ヲ産ス、ニ富メリ、而シテ
鹿島郡ハ獨リ漁業ヲ主トシテ農耕ハ其兼務ニ
屬シ、行方、信太、河内ノ諸郡ト同ク曠原未耕ノ土

都邑
水戸

地多クシテ、田圃極テ少ク、隨テ村落稀疏、人口亦甚寡少ナリ

水戸ハ

〔徳川氏三十五万石ノ旧城地ニテ、今茨城縣廳ノ所在地タリ、東京ヲ距ル凡三十一里〕

餘那珂川ノ南岸ニ在リテ、南ニ千波沼ヲ控ヘ、戸數四千二百四十、人口凡一萬九千五百八十餘アリ、市街ハ舊城ヲ周リテ西ヲ上市ト云ヒ、東ヲ下市ト云フ、共ニ商況殷賑ナリ、上市ノ西南ニ常磐神社ト云フアリテ、其境内ニ接シテ偕樂園ト稱スル公園アリ、此地ハ有名ナル徳川齊昭卿〔景山ト號〕ノ閑園ニ係リ、好文亭、樂壽樓等紅林緑樹ノ間ニ隱顯シ、南面ハ千波沼ニ臨ミ、風景佳絶ヲ以テ稱スベシ之ヲ國中第一ノ都邑トシ、之ニ次グヲ

新治郡ノ土浦

土屋氏九万五千石ノ旧城地ニテ東京ニ凡十八里半強ノ水戸ニ凡十

二里トス、水戸ヨリ東京ニ至ル街道ノ衝ニ當リ、

霞浦ノ西岸ニ在リテ、戸數一千九百五十餘、人口

凡一萬二百九十餘アリ、近時霞浦ニ漁船往來ノ

便アリテ、市街ノ商賣稍繁華ヲ致セリ、其他各地

ニ名邑ノ稱アルモノ新治郡ノ石岡、西茨城郡ノ

北條、河内郡ノ龍崎、行方郡ノ潮來、鹿島郡ノ

宮中、磯濱、那珂郡ノ那珂湊、久慈郡ノ太田、少力

ラズト雖、概ネ土地偏僻ニシテ商況振ハズ、人口

モ亦皆一萬ニ足ルモノナシ

國中ノ水利ハ、北ニ久慈川磐城國ヨリ八溝山ノ

ヲ貫キ、那珂郡ノ北境ヲ繞リ、東折シテアリ、中央

海ニ入ル、國中ヲ流ル、コト凡十二里、中央

ニ那珂川下野國那珂郡ノ西北ニ發シテ普ク各

茨城ノ兩郡界ヲ限リ、榮田屈折シテ千波沼、涸沼
等ノ流レヲ集メ、湊村ニ至リテ海ニ入ル、全長凡
四十里及千波沼周回凡一涸沼周回凡四等ノ諸水
アリ、東南ニ至リテ有名ナル霞浦前編ニノ大湖
北浦ノ渚水ト相聯リ、西南ニハ大寶周回凡二牛
久周回凡ノ二沼及鬼怒一ニ絹川ニ作ル、下野ヨ
コト凡蠶養一ニ小貝ニ作ル、下野ヨリ來リノ諸
十一里蠶養國中ヲ流ル、コト凡十四里ノ諸
流アリテ、全土灌溉ノ利ニ乏シカラズ、東方ノ海
岸線ハ凡三十七里ニ亘リ、東北ノ一隅ニ平潟港
アリテ繫船ニ便ナリ

Rare Collection

DS
805
.S25
1890
vol.2
pt.1



L. Tom Perry Special Collections
Harold B. Lee Library
Brigham Young University

BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY



3 1197 23510 3352

